文教民生委員会・分科会 会議記録

- 1 期 日 令和元年12月13日（金）
午前9時25分 開会
午後4時00分 閉会
- 2 場 所 第2委員会室
- 3 出席委員 委員長 西田 真
副委員長 田中藤一郎
委員 井上 正治、上田 伴子、
清水 寛、竹中 理、
福田 嗣久
- 4 欠席委員 なし
- 5 説明員 （別紙のとおり）
- 6 傍聴議員 なし
- 7 事務局職員 主幹兼調査係長 木山 敦子
- 8 会議に付した事件 （別紙のとおり）

文教民生委員長・分科会長 西田 真^印

文教民生委員会・分科会次第

2019年12月13日（金）9:30～
第2委員会室

1 開 会

2 委員長あいさつ

3 協議事項

(1) 付託・分担案件の審査

議案付託表・分科会分担表のとおり（5・6頁）

(2) 請願・陳情の審査

- ア 陳情第5号：災害時要援護者登録者数の回復に関する陳情書
（社会福祉課）※13:00～：陳情者委員会傍聴あり
- イ 陳情第3号：公立豊岡病院組合内病院の充実に関する陳情について
（健康増進課）
- ウ 陳情第4号：豊岡市の幼稚園・保育園・認定こども園の統合計画、
学童保育所、小学校区についての陳情書
（こども育成課）

(3) 報告事項

- ア 骨髄移植後の予防接種の再接種に対する助成制度の創設について
（健康増進課）
- イ 豊岡市新文化会館整備基本計画(案)に関するパブリックコメント
の結果について（新文化会館整備推進室）
- ウ 第2期子ども・子育て支援事業計画について（こども育成課）

(4) 委員会管内視察研修事前学習

豊岡市非認知能力向上対策事業に係る「演劇ワークショップ」について
（こども教育課）

- ア 視察先 資母小学校
- イ 実施日 2020年1月15日（水）
- ウ 内 容 9:35～10:20 1年生のワークショップ
10:45～12:20 2・3年生のワークショップ

(5) 委員会意見・要望のまとめ

(6) 分科会意見・要望のまとめ

(7) 閉会中の継続審査の申し出について <別紙 1> (7 頁)

(8) その他

委員会管外視察研修について (8・9 頁)

ア 視察先

イ 実施日

第 1 候補：2020 年 5 月 13 日 (水) ～15 日 (金)

第 2 候補：2020 年 5 月 12 日 (火) ～14 日 (木)

ウ 視察項目

4 閉 会

令和元年第4回豊岡市議会（定例会）議案付託分類表

【文教民生委員会】

- 報告第20号 専決処分したものの報告について
- 専決第16号 損害賠償の額を定めることについて
- 第107号議案 豊岡市立図書館の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例制定について
- 第108号議案 豊岡市立豊岡市民プラザの設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例制定について
- 第109号議案 豊岡市立東大谷野外活動施設の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例制定について
- 第110号議案 豊岡市立文化会館の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例制定について
- 第111号議案 豊岡市立歴史資料館の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例制定について
- 第112号議案 豊岡市立美術館「伊藤清永記念館」の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例制定について
- 第113号議案 豊岡市立日本・モンゴル民族博物館の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例制定について
- 第114号議案 豊岡市立出石永楽館の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例制定について
- 第115号議案 豊岡市立体育施設の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例制定について
- 第116号議案 豊岡市立日高文化体育館の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例制定について
- 第117号議案 豊岡市立学校施設の使用料の徴収に関する条例の一部を改正する条例制定について
- 第118号議案 豊岡市立健康福祉センターの設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例制定について
- 第119号議案 豊岡市立老人福祉センターの設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例制定について
- 第120号議案 豊岡市立健康増進施設の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例制定について
- 第121号議案 豊岡市立総合健康ゾーン健康増進施設の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例制定について
- 第143号議案 豊岡市立歴史博物館「但馬国府・国分寺館」の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例制定について

- 第146号議案 豊岡市立国民健康保険資母診療所の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例制定について
- 第151号議案 豊岡市立小中学校適正規模・適正配置審議会条例制定について
- 第155号議案 令和元年度豊岡市国民健康保険事業特別会計（事業勘定）補正予算（第3号）
- 第156号議案 令和元年度豊岡市後期高齢者医療事業特別会計補正予算（第2号）
- 第157号議案 令和元年度豊岡市介護保険事業特別会計補正予算（第3号）
- 第158号議案 令和元年度豊岡市診療所事業特別会計補正予算（第2号）
- 第166号議案 令和元年度豊岡市国民健康保険事業特別会計（事業勘定）補正予算（第4号）
- 第167号議案 令和元年度豊岡市国民健康保険事業特別会計（直診勘定）補正予算（第2号）
- 第168号議案 令和元年度豊岡市後期高齢者医療事業特別会計補正予算（第3号）
- 第169号議案 令和元年度豊岡市介護保険事業特別会計補正予算（第4号）
- 第170号議案 令和元年度豊岡市診療所事業特別会計補正予算（第3号）

予算決算委員会付託議案に係る分科会分担表

【文教民生分科会】

- 第154号議案 令和元年度豊岡市一般会計補正予算（第4号）

文教民生委員会名簿

2019. 12. 13

【委員】

職名	氏名
委員長	西田 真
副委員長	田中 藤一郎
委員	井上 正治
委員	上田 伴子
委員	清水 寛
委員	竹中 理
委員	福田 嗣久

7名

【当局】出席者は着色をしています。

職名	氏名	職名	氏名
地域コミュニティ振興部長	幸木 孝雄	市民生活部長	谷岡 慎一
地域コミュニティ振興部参事	桑井 弘之	市民課長	定元 秀之
生涯学習課長	大岸 和義	生活環境課長	今井 謙二
生涯学習課参事	上田 健治	城崎振興局 市民福祉課長	土岐 浩司
文化振興課長	米田 紀子	竹野振興局 市民福祉課長	船野 恵子
文化振興課参事	小川 一昭	日高振興局 市民福祉課長	前野 郁子
新文化会館整備推進室長	櫻田 務	出石振興局 市民福祉課長	川口 雅浩
スポーツ振興課長	池内 章彦	但東振興局 市民福祉課長	柏木 敏高

8名

8名

職名	氏名	職名	氏名
健康福祉部長	久保川伸幸	教育次長	堂垣 真弓
社会福祉課長	原田 政彦	教育総務課長	永井 義久
社会福祉課参事	小野 弘順	教育総務課参事	宇川 義和
社会福祉課参事	大谷 賢司	教育総務課参事	橋本 明宏
高年介護課長	恵後原孝一	教育総務課参事	大谷 康弘
高年介護課参事	武田 満之	こども教育課長	飯塚 智士
健康増進課長	宮本 和幸	こども教育課参事	川端美由紀
健康増進課参事	浅田 英稔	こども育成課長	木下 直樹
健康増進課参事	村尾 恵美	こども育成課参事	山根 哲也
健康増進課参事	三上 尚美	こども育成課参事	富岡 隆
		こども育成課参事	山本加奈美

10名

11名

欠席

【事務局】

職名	氏名
議会事務局主幹兼調査係長	木山 敦子

合計45名

午前9時25分 委員会開会

○委員長（西田 真） 皆さん、おはようございます。きょうは早朝より文教民生委員会・分科会にお集まりいただきまして、本当にありがとうございます。最近めっきり寒くなって、冬らしくなってきましたけど、皆さん、体にはご自愛していただきますように、よろしくお祈いします。

きょうはたくさんの議案等ありますので、さっさとやっていただきまして、親切丁寧に、いやいや、ごめんなさい、親切丁寧に、いろんな議論も出していただいて、よりよくなりますように、豊岡市市政発展のために、皆さん方当局側も、委員側も一生懸命議論を尽くして頑張ってもらいたいと思いますので、限られた時間ありますので、よろしくお祈いしたいと思ひますし、質問も簡潔明瞭にさせていただきますように、よろしくお祈いしたいと思ひます。

それでは、これから始めます。よろしくお祈いします。

それでは始めさせてもらひます。なお、当局から教育総務課、宇川参事の欠席について申し出があり、許可いたしておりますので、ご了承願ひします。

また、一般会計に関する予算関係議案につきましては、予算決算委員会に付託され、当委員会は文教民生分科会として担当部会の審査を分担することになります。したがひまして、議事の進行は、委員会と分科会を適宜切りかえて行ひますので、ご協力をお祈いいたします。

これより、協議事項1番、付託・分担案件の審査に入ります。

審査日程ですが、まず、委員会付託された議案の説明、質疑、討論、表決を行ひ、その後、予算決算委員会付託議案に係る当分科会に分担された令和元年度豊岡市一般会計補正予算についての説明、質疑、討論、表決を行ひます。

その後、請願、陳情の審査、報告事項、管内視察事前学習に続き、委員のみで委員会及び分科会意見、要望等の取りまとめを行ひます。

なお、陳情第5号につきましては、審査の進捗にかかわらず、午後1時から行ひます。

委員の皆さん、当局の皆さん、説明、質疑、答弁に当たりましては、くれぐれも要点を押さえていただき、簡潔明瞭に行うなど、スムーズな議事進行に格別のご協力をお祈いいたします。

また、発言の最初には必ず課名と名字をお祈いいたします。議案の審査につきましては、お手元の議案付託・分科会分担表の順に行ひますので、ご了承願ひします。

まず、報告第20号、専決処分したものの報告について、専決第16号、損害賠償の額を定めることについてを議題といたします。

当局の説明を求めます。

生涯学習課、大岸課長。

○生涯学習課長（大岸 和義） それでは、議案書1ページをごらんください。報告第20号、専決処分したものの報告について説明をいたします。

本件は、市長に委任する専決処分事項の指定についての規定により専決処分しましたので、地方自治法の規定により議会に報告するものでございます。

4ページをごらんください。専決第16号、損害賠償の額を定めることについて説明をいたします。

本日配付いたしました資料をごらんいただけますでしょうか。（「委員長、休憩してください」と呼ぶ者あり）

○委員長（西田 真） 暫時休憩します。

午前9時28分 委員会休憩

午前9時31分 委員会再開

○委員長（西田 真） 委員会を再開いたします。

生涯学習課、大岸課長。

○生涯学習課長（大岸 和義） それでは、資料によって説明をさせていただきます。

本件は、生涯学習課職員が運転する公用車が本年6月10日午前9時9分ごろ、位置図にございます泉町の交差点で起こした交通事故について、11月13日付で専決処分したものでございます。下の図、事故現場図をごらんいただきたいと思います。当該事故は9月議会におきまして、ガレージ、相手方車両、それから総務課が所管します公用車の損害賠償

の額について報告や議決をいただいたものと同一の事故で、生涯学習課職員が赤信号に気づかず交差点に進入し、相手方車両と衝突したもので、今回、人身損害に対する賠償額について専決処分したものでございます。

議案書4ページに戻っていただけますでしょうか。損害賠償額は118万7,203円で、相手方、事故の概要は記載のとおりでございます。運転中に細心の注意を払い続けることはもちろん、安全運転のさらなる徹底を図ってまいりたいと考えております。このたびはまことに申しわけございませんでした。説明は以上です。

○委員長（西田 真） 説明は終わりました。

質疑はありませんか。どなたからでも結構です。井上委員、どうぞ。

○委員（井上 正治） 毎回の議会で、本当にたくさん事故報告がされておるといのが現状でございます。特に今回は、人身事故を伴うような大事故であるなというふうに考えております。今回出されている専決事項の中でも、各所管が違う部分も、全て市のほうが10割というふうな過失ということについては、非常に重大なやっぱり、ことであるというふうに私たちも認識をいたしておりますので、こういう場合、規則的に職員さんの対処といひますか、職員に対する対応というのはどのようになっているか、まずお伺いしたいと思います。

○委員長（西田 真） 生涯学習課、大岸課長。

○生涯学習課長（大岸 和義） 事故を起こしました職員に対しましては、当然事故後、事情聴取等を行った上で、安全運転の徹底を指導しているところでございますし、それから、自動車運転教習所のほうにお願いしまして、安全運転の、再度、講習を受けていただいたりしております。それから、私ども生涯学習課全体としまして、安全運転意識を高めるために、チャレンジ100のほうを10月1日から参加をさせていただいてるところでございます。以上です。

○委員長（西田 真） 井上委員。

○委員（井上 正治） なら、特別に、どう言ったら

いいんですかね、そういう講習であるとかいうだけのことであって、特別他の処分というのではないというふうに理解してよろしいですか。

○委員長（西田 真） 大岸課長。

○生涯学習課長（大岸 和義） そういった処分のことについては、現在のところ人事課、それから総務課から伺っている状況ではございません。

○委員長（西田 真） 井上委員。

○委員（井上 正治） そういう形の中で事故が減ればいいんですけども、毎回出てるということについては非常に重大な事項でありますので、これは市役所内全体でしっかりとした対応が必要であるというふうに考えております。

それから、不随してちょっとお尋ねしたいんですけども、例えば職員が公用車を運転中にスピード違反であるとか、そういうふうな形の、行政処分にならない程度の違反の場合の報告義務というようなことは、どのようにされてるんですか。わかりませんか。いや、わからなかったらいいですよ。

○委員長（西田 真） 答弁願います。

大岸課長。

○生涯学習課長（大岸 和義） 職員のそういった安全運転管理につきましては総務課のほうが所管しておりますので、ちょっと私のほうでは全体を把握しておりませんので、申しわけございません。

○委員（井上 正治） わかりました、いいです。それはそれでまた、総務課……。

○委員長（西田 真） 井上委員。

○委員（井上 正治） 済みません、委員長。

それはまた、総務課のほうにでも私のほうが確認させていただきたいと思います。

特に今回の事故につきましても、不注意、赤信号、やっぱり言ってみれば原因が1つ、2つというふうなことにあるんで、このことについてはやはり運転者の守らなきゃいけない一番大原則であります。こういう部分をやっぱりしっかりと、職員も誰もが再認識をしていただいて、事故のないように続けていただきたいと思いますというふうに考えておりますので、しっかりとした、各課も対応をお願いしたいと

いうふうに思います。

私自身も含めて、やはり交通事故というのは起こせば本人も大変ですし、相手も大変です。いろんなところにご迷惑をおかけするわけですから、しっかりと交通安全に努めるべきであるというふうに思います。検討してお伝えしておきます。以上です。

○委員長（西田 真） ほかにありませんか。ありませんか、よろしいですか。

この件に対して、特に異議はありませんね、よろしいですね。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（西田 真） 特にご異議がありませんので、報告第20号、専決第16号は、了承すべきことに決定いたしました。

次に、第107号議案、豊岡市立図書館の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例制定について、ほか2件を一括議題といたします。

なお、説明、質疑は一括で行い、討論、表決は個別に行いますので、ご了承願います。

当局の説明を求めます。

生涯学習課、大岸課長。

○生涯学習課長（大岸 和義） それでは、第107号議案、豊岡市立図書館の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例制定について、それから、第108号議案、豊岡市立豊岡市民プラザの設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例制定について、それから、第109号議案、豊岡市立東大谷野外活動施設の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例制定について説明をさせていただきます。

今回、生涯学習課が所管しております、ただいま申し上げました107号議案から109号議案におきましては、第3次行政改革大綱におけます受益者負担の適正化に伴いまして、使用料等の引き上げを行うとともに、その他所要の規定の改正をしようとするものでございます。

それでは、各改正条例の条例案要綱により概要を説明申し上げます。

それでは、58ページをごらんください。第107号議案、豊岡市立図書館の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例案要綱でございます。まず、改正の内容をご説明いたします。

豊岡市立図書館の視聴覚・講演室、それから会議室、展示コーナーの使用料を引き上げるものでございます。附則ですが、（１）、附則第1項関係で、この条例の施行期日を令和2年4月1日としております。（２）、附則第2項関係で、改正後の規定は、施行の日以後に許可を受ける使用について適用し、同日前に許可を受けている使用については、なお従前の例によるとしております。

なお、59ページに改正します関係条例の新旧対照表を添付しておりますので、ご清覧ください。

続きまして、63ページをごらんください。第108号議案、豊岡市立豊岡市民プラザの設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例案要綱にて説明を申し上げます。改正の内容を説明いたします。

豊岡市民プラザの多目的ホール、それから楽屋、市民活動室等の利用料金の限度額を引き上げるものでございます。附則ですが、（１）、附則第1項関係で、この条例の施行期日を令和2年4月1日としております。（２）、附則第2項関係で、改正後の規定は、施行の日以後の許可を受ける使用について適用し、同日前に受けている使用については、なお従前の例によるものとしております。

なお、64ページから65ページに改正する関係条例の新旧対照表を添付しておりますので、ご清覧ください。

続きまして、68ページをごらんください。第109号議案、豊岡市立東大谷野外活動施設の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例案要綱について説明をいたします。改正の内容を説明いたします。

竹野町にあります東大谷野外活動施設の研修棟、それからコテージ等の利用料金の限度額を引き上げるものでございます。附則ですが、（１）、附則第1項関係で、この条例の施行期日を令和2年4月1日としております。（２）、附則第2項関係で、

改正後の規定は、施行の日以後の許可を受ける使用について適用、同日前に許可を受けている使用については、なお従前の例によるものとしております。

なお、69ページから70ページに改正する関係条例の新旧対照表を添付しておりますので、ご清覧ください。生涯学習課は以上です。

○委員長（西田 真） 説明は終わりました。

質疑はありませんか。

上田委員。

○委員（上田 伴子） この引き上げの理由ですが、行革によるってことですが、消費税増税ということも理由の一つではあるんでしょうか、お聞きします。

○委員長（西田 真） 大岸課長。

○生涯学習課長（大岸 和義） ご質問いただいた、消費税がこの値上げに影響してるかということですが、政策調整部長のほうから本会議の場で一括説明をさせていただいた際にも説明をさせていただいておりますが、消費税も含めて、全体のバランスを考える中で見直しを行ったということでございます。

○委員長（西田 真） 上田委員、どうぞ。

○委員（上田 伴子） はい、わかりました。

もう1点。あと、会館などで、どこだったかな、プラザだったかな、施設の中で、プラザのとこなんかですと、夜間の部分の値段が昼間の値段よりも高くなってるのはどういう理由からですか。

○委員長（西田 真） 大岸課長。

○生涯学習課長（大岸 和義） 利用の内容から、頻度の高いところはどうしても高くなる、また、夜間につきましては当然職員が張りつく必要があるんですが、その際のコストも考えまして、若干昼間よりも高くさせていただいているというふうになっております。

○委員長（西田 真） 上田委員。

○委員（上田 伴子） はい。

○委員長（西田 真） よろしいか。

○委員（上田 伴子） よろしいです。

○委員長（西田 真） ほかにありませんか。

福田委員。

○委員（福田 嗣久） 今の中で、市民プラザと大谷野外活動の指定管理されてる箇所についてですけども、限度額の引き上げということは上限を決めるということなんでしょうけども、その後の引き上げについては、指定団体の自主裁量ということでしょうか。

○委員長（西田 真） 大岸課長。

○生涯学習課長（大岸 和義） 来年4月以降に指定管理者が定める料金についてのお尋ねでしょうか。

○委員（福田 嗣久） はい、そうですね、はい。

○生涯学習課長（大岸 和義） おっしゃるとおりで、この上限の範囲内で指定管理者が経営上必要な金額を届け出てくると。それに対して我々は妥当かどうかを審査した上で認めていくという形になります。

○委員長（西田 真） 福田委員。

○委員（福田 嗣久） わかりましたけれども、あと、引き上げについての当局なりの指導ということに入るわけでしょうか。例えば上げなさいとか、上げてくださいとか。限度額を引き上げた、その範囲の中で。

○委員長（西田 真） 大岸課長。

○生涯学習課長（大岸 和義） 基本的には指定管理者側がその範囲内でいけるかどうかという判断をされた上で価格設定をされるものというふうに考えておりますので、過大な介入といえますか、指導等は行う予定はありません。

○委員長（西田 真） 福田委員。

○委員（福田 嗣久） だとすれば、引き上げをしませんという選択肢もされる場合があるということなんじゃないかな。

○委員長（西田 真） 大岸課長。

○生涯学習課長（大岸 和義） はい、制度的にはそういうことでございます。

○委員（福田 嗣久） わかりました。

○委員長（西田 真） よろしいか。

○委員（福田 嗣久） はい、結構です。

○委員長（西田 真） ほかにありませんか。よろ

しいか。

質疑は打ち切ります。

それでは、討論に入ります。

まず、107号議案について、討論はありませんか。

上田委員。

○委員（上田 伴子） この値上げ、引き上げ案ですが、1号改正する条例での引き上げ案ですけれども、基本的には私は消費税増税に関してやっぱり反対の立場をとっています。その中で、行革の中での消費税増税も絡んでの引き上げということで、反対を申し上げます。

○委員長（西田 真） ほかにありませんか。
井上委員。

○委員（井上 正治） 私は、賛成の立場で討論を申し上げます。

今回の消費税は前回のことの値上げについても反映されてないということもありますので、消費税の引き上げ分の転嫁についてはやむを得ないと判断をいたしまして、よって、賛成の討論といたします。

○委員長（西田 真） ほかにありませんか。
〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（西田 真） 討論を打ち切ります。
賛成、反対の意見がありますので、挙手により採決いたします。

第107号議案は、原案のとおり可決すべきことに賛成の委員の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

○委員長（西田 真） 賛成多数により、第107号議案は、原案のとおり可決すべきものと決定いたしました。

次に、第108号議案について、討論はありませんか。

上田委員。

○委員（上田 伴子） 先ほどの理由並びに、また、やっぱり市民が使う、市民以外も使われるかもわかりませんが、市民のためのこういう施設でございますので、使いよい料金設定が要ると思います。この

消費税値上げで全ての生活がやはり逼迫していることもありますので、ぜひ、皆さんが使いやすいように、値段を今までのようにしてもらうことが必要だと考えます。

この引き上げをせずに、違う方法で、引き上げしなくてもいいような方法をぜひ考えていただけたらなと思っています。そのために、先ほどと同じ理由で反対をします。

○委員長（西田 真） 上田委員、先ほどというのは107号議案とはっきり言っていたかと思いますが、

もう一度お願いします。

○委員（上田 伴子） 107号議案同様、反対の立場をとらせていただきます。

○委員長（西田 真） ほかにありませんか。
井上委員。

○委員（井上 正治） 第108号議案につきまして、賛成の討論をいたします。

107号議案と同様の趣旨により、賛成の意見といたします。

○委員長（西田 真） ほかにありませんか。
〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（西田 真） 討論を打ち切ります。
賛成、反対の意見がありますので、挙手により採決いたします。第108号議案は、原案のとおり可決すべきことに賛成の委員の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

○委員長（西田 真） 賛成多数により、第108号議案は、原案のとおり可決すべきものと決定いたしました。

続いて、第109号議案について、討論はありませんか。

上田委員。

○委員（上田 伴子） この件に関しましても、107号議案、108号議案同様の理由で反対させていただきます。

○委員長（西田 真） ほかにありませんか。
井上委員。

○委員（井上 正治） 107号議案同様の趣旨によ

り、賛成意見といたします。

○委員長（西田 真） ほかにありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（西田 真） 討論を打ち切ります。

賛成、反対の意見がありますので、挙手により採決いたします。

第109号議案は、原案のとおり可決すべきことに賛成の委員の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

○委員長（西田 真） 賛成多数により、第109号議案は、原案のとおり可決すべきものと決定いたしました。

次に、第110号議案、豊岡市立文化会館の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例制定について、ほか4件を一括議題といたします。

なお、説明、質疑は一括で行い、討論、表決は個別に行いますので、ご了承願います。

当局の説明を求めます。

文化振興課、米田課長。

○文化振興課長（米田 紀子） それでは、議案書71ページの110号議案から114号議案まで、文化振興課所管施設について一括で説明させていただきます。これらは第3次行政改革大綱における受益者負担の適正化に伴い引き上げを行うとともに、博物館、美術館施設における料金の考え方の統一を図るため、入館料の改正をしようとするものです。

それでは、まず71ページ、110号議案、豊岡市立文化会館の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例制定について。条例案要綱で説明いたしますので、73ページごらんください。よろしいでしょうか。改正の内容です。豊岡市民会館の文化ホール、大会議室、ギャラリー等の使用料を引き上げること。2の附則について、第1項関係で、施行期日を令和2年4月1日とすること、第2項関係で、この条例の施行日以後に使用許可を受ける者の使用料について適用し、同日前に使用許可を受けている者の使用料については、なお従前の例によることとしております。

74ページと75ページに新旧対照表を添付し

ておりますので、ご清覧ください。

続きまして、76ページ、111号議案、豊岡市立歴史資料館の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例制定について説明いたします。

同じく、78ページの要綱で説明させていただきます。改正の内容です。歴史資料館のうち、出石明治館の多目的集会室の使用料を引き上げることとしております。2の附則についてです。第1項関係で、これも施行期日を令和2年4月1日としております。第2項関係で、改正後の規定は、施行の日以後に使用許可を受ける使用について適用し、同日前に許可を受けている使用については、なお従前の例によることとしています。

新旧対照表を79ページに添付しておりますので、ご清覧ください。

続きまして、80ページです。112号議案、豊岡市立美術館「伊藤清永記念館」の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例制定について説明いたします。

82ページの条例案要綱をごらんください。よろしいでしょうか。改正の内容です。美術館の入館料につきまして、区分の学生の20人以上の団体の入館料を引き上げることとしています。これは、市の博物館、美術館施設の料金体系の考え方の統一を図ることとし、市立歴史資料館を例に、団体区分は2割を減じた額としようとするものです。2の附則で、令和2年4月1日から施行することとしています。

83ページに新旧対照表を添付しておりますので、こちらもご清覧ください。

続きまして、84ページ、こちら、113号議案です。豊岡市立日本・モンゴル民族博物館の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例制定について、同じく、条例案要綱により説明をいたします。

86ページをごらんください。改正の内容でございます。まず（1）ですが、先ほどの美術館と同じく、観覧料につきまして料金体系の考え方の統一を図ることとし、市立の歴史資料館を例とし、

学生は4割を、小学生、中学生は5割を、団体は2割を減じた額に改めようとするものです。(2)につきましては、企画展示室、それから体験交流室及び天幕住居の使用料を引き上げることとしております。次に、附則です。第1項関係では、令和2年4月1日を施行期日とすること、第2項関係では、改正後の規定はこの条例の施行の日以後に許可を受ける使用について適用し、同日前に許可を受けている使用については、なお従前の例によることとしております。

87、88ページに新旧対照表を添付しておりますので、ご清覧ください。

文化振興課最後です。89ページ、114号議案、豊岡市立出石永楽館の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例制定について、同じく、条例案要綱により説明をいたします。

91ページをごらんください。改正の内容でございます。(1)は出石永楽館の本館と、及び附属棟控室の使用に係ります利用料金の限度額を引き上げることとしております。(2)では、個人の大人料金につきまして、100円単位で切り上げ、各区分の料金につきましては、この大人料金を基本にしまして料金体系の統一の考え方のもと、各区分の利用料金の限度額を引き上げることとしております。次に、附則です。第1項関係で、施行期日を令和2年4月1日とすること、第2項関係で、改正後の規定はこの条例の施行の日以後に許可を受ける使用について適用し、同日前に許可を受けている使用については、なお従前の例によることとしております。

92ページと93ページに新旧対照表を添付しておりますので、ご清覧ください。以上で説明を終わります。ご審議賜りますよう、よろしくお願いいたします。

○委員長(西田 真) 説明は終わりました。

質疑はありませんか。ありませんか。

質疑を打ち切ります。

それでは、討論に入ります。

まず、第110号議案について、討論はありませんか。

上田委員。

○委員(上田 伴子) 文化会館の使用料について、やはり文化ホール、また、あとの小会議室とか大会議室におきましても値上げが、引き上げが提案されております。たくさんの市民、また、ほかの方たちが利用するこのような施設の引き上げ、消費税増税に絡んでの引き上げについては、反対をいたします。はい、反対します。

○委員長(西田 真) 上田委員。

○委員(上田 伴子) はい。

○委員長(西田 真) 第107号議案との。

○委員(上田 伴子) はい。

○委員長(西田 真) それを言っていたいたほうが。

○委員(上田 伴子) 第110号議案。

○委員長(西田 真) 第107号議案と同内容というふうに。

○委員(上田 伴子) 107号議案と同様に、反対をさせていただきます。

○委員長(西田 真) ほかにありませんか。井上委員。

○委員(井上 正治) 賛成の立場で討論申し上げます。

私も、107号議案の同趣旨により、消費税値上げ分の転嫁については、やむをえないと判断をいたし、賛成の意見といたします。

○委員長(西田 真) ほかにありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長(西田 真) 討論を打ち切ります。

賛成、反対の意見がありますので、挙手により採決いたします。

第110号議案は、原案のとおり可決すべきことに賛成の委員の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

○委員長(西田 真) 賛成多数により、第110号議案は、原案のとおり可決すべきものと決定いたしました。37.15

次に、第111号議案について、討論はありませんか。

上田委員。

○委員（上田 伴子） 111号議案においても、107号議案と同様の理由で反対いたします。

○委員長（西田 真） ほかにありませんか。

井上委員。

○委員（井上 正治） 賛成の討論といたします。

第107号議案と同趣旨により、賛成の意見といたします。

○委員長（西田 真） ほかにありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（西田 真） 討論を打ち切ります。

賛成、反対の意見がありますので、挙手により採決いたします。

第111号議案は、原案のとおり可決すべきことに賛成の委員の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

○委員長（西田 真） 賛成多数により、第111号議案は、原案のとおり可決すべきものと決定いたしました。

続いて、第112号議案について、討論はありますか。

上田委員。

○委員（上田 伴子） 112号議案においても、107号議案の討論と同様の理由によりまして、反対いたします。

○委員長（西田 真） ほかにありませんか。

井上委員。

○委員（井上 正治） 賛成の討論をいたします。

107号議案と同趣旨により、よって、賛成の意見といたします。

○委員長（西田 真） ほかにありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（西田 真） 討論を打ち切ります。

賛成、反対の意見がありますので、挙手により採決いたします。

第112号議案は、原案のとおり可決すべきことに賛成の委員の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

○委員長（西田 真） 賛成多数により、第112

号議案は、原案のとおり可決すべきことに決定いたしました。

次に、第113号議案について、討論はありますか。

上田委員。

○委員（上田 伴子） 113号議案においても、107号議案同様の理由により、反対いたします。

○委員長（西田 真） ほかにありませんか。

井上委員。

○委員（井上 正治） 賛成の討論といたします。

107号議案と同趣旨により、よって、賛成の意見といたします。

○委員長（西田 真） ほかにありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（西田 真） 討論を打ち切ります。

賛成、反対の意見がありますので、挙手により採決いたします。

第113号議案は、原案のとおり可決すべきことに賛成の委員の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

○委員長（西田 真） 賛成多数により、第113号議案は、原案のとおり可決すべきものと決定いたしました。

次に、第114号議案について、討論はありますか。

上田委員。

○委員（上田 伴子） 第114号議案におきましても、107号議案同様の理由により、反対いたします。

○委員長（西田 真） ほかにありませんか。

井上委員。

○委員（井上 正治） 賛成の討論をいたします。

第107号議案と同様の趣旨により、よって、賛成の意見といたします。

○委員長（西田 真） ほかにありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（西田 真） 討論を打ち切ります。

賛成、反対の意見がありますので、挙手により採決いたします。

第114号議案は、原案のとおり可決すべきことに賛成の委員の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

○委員長（西田 真） 賛成多数により、第114号議案は、原案のとおり可決すべきものと決定いたしました。

次に、第115号議案、豊岡市立体育施設の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例制定について、ほか2件を一括議題といたします。

なお、説明、質疑は一括で行い、討論、表決は個別に行いますので、ご了承願います。

当局の説明を求めます。

スポーツ振興課、池内課長。

○スポーツ振興課長（池内 章彦） スポーツ振興課が所管をしています、第115号議案から117号議案におきましては、第3次行政改革大綱における受益者負担の適正化に伴い、使用料等の引き上げを行うとともに、その他所要の規定の改正をしようとするものです。

では、各改正条例の条例要綱により、概要をご説明申し上げます。

それでは、104ページをごらんください。第115号議案、豊岡市立体育施設の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例案要綱をご説明申し上げます。

改正の内容をご説明します。（1）ですけれども、竹野B&G海洋センターのプールの部分の屋根が老朽化したため撤去し、夜間利用ができなくなりましたので、開場時間につきまして、7月及び8月の午後5時以降の開場を廃止するものです。（2）ですが、17施設の使用料等の引き上げと、体育の目的以外に使用する場合の使用料の加算倍率を10倍から1.5倍に引き下げる改正を行います。また、出石総合スポーツセンター野球場の整備に伴い、本部席に冷暖房設備を設置しましたので、冷暖房を使用する場合には、1時間当たり300円を加算するというようにしております。附則についてですけれども、（1）で、附則第1項関係で、この条例の施行は令和2年4月1日からとしております。（2）、

附則第2項関係で、改正後の規定は、施行の日以後の許可を受ける使用について適用し、同日前に許可を受けている使用については、なお従前の例によるとしております。

なお、105ページから124ページに改正する関係条例の新旧対照表を添付しておりますので、ご清覧ください。

続きまして、128ページをお願いします。第116号議案、豊岡市立日高文化体育館の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例案要綱をご説明申し上げます。

改正の内容ですけれども、日高文化体育館の使用料金の限度額の引き上げ及び当該施設の区分のうち、トレーニング室を廃止をして会議室2にすることの改正をしております。附則ですけれども、（1）で附則第1項関係で、この条例の施行は、令和2年4月1日からとしております。（2）、附則第2項関係で、改正後の規定は施行の日以後の許可を受ける使用について適用し、同日前に許可を受けている使用については、なお従前の例にするとしております。

なお、129ページから130ページに改正する関係条例の新旧対照表を添付しておりますので、ご清覧ください。

続きまして、133ページをお願いします。第117号議案、豊岡市立学校施設の使用料の徴収に関する条例の一部を改正する条例案要綱をご説明申し上げます。

改正の内容ですけれども、学校施設における屋内運動場、柔剣道場、多目的ホール、屋外運動場等の使用料及び屋外運動場の照明施設を使用する場合の加算額を引き上げるものです。附則ですけれども、

（1）で附則第1項関係で、この条例の施行期日は、令和2年4月1日からとしております。（2）、附則第2項関係で、改正後の規定は施行日以後の許可を受ける使用について適用し、同日前に許可を受けている使用については、なお従前の例によるとしております。

なお、134ページに改正する関係条例の新旧対照表を添付しております。ご清覧ください。説明は

以上です。

○委員長（西田 真） 説明は終わりました。

質疑はありませんか。

上田委員。

○委員（上田 伴子） 先ほどの説明の中で、115号議案において、プールの屋根が壊れたということでありましたが、これは修繕はされるのでしょうか。

○委員長（西田 真） 池内課長。

○スポーツ振興課長（池内 章彦） 竹野のB&Gの屋根ですけれども、これについては撤去のみということで、設置はしないということで、一つ撤去したところでプールに入りながら海が見えるっていうふうなことで、割と利用者が少しふえてるというふうな状況にもあるということで、新たに設置する予定はないです。

○委員（上田 伴子） はい、了解です。

○委員長（西田 真） 上田委員、よろしいか。

○委員（上田 伴子） はい。

○委員長（西田 真） ほかにありませんか。

井上委員。

○委員（井上 正治） 128ページ、豊岡市立日高文化体育館の設置及び管理、条例の一部改正する提案でございますけれども、トレーニング室を廃止というふうな形で、会議室にということが提案されておりますけれども、これについては利用者等との調整とか、それから、利用率が低いということは考えられるわけですが、その辺の考え方をもう少し詳しく教えてください。

○委員長（西田 真） 池内課長。

○スポーツ振興課長（池内 章彦） 今言いました文化体育館のトレーニング室につきましては、竣工後から同じ機器を使っております、30年を超えてるということで、危険だというふうなことがあります。今回この条例を提案させていただいておりますので、可決後、利用者には来年の3月31日でここは廃止するというふうな通知をしたいなというふうに思っております。近くには日高の東部健康福祉センターだとか、県立但馬ドームにトレーニング機能があるというふうなことで、よりここの施設を利活用で

きるような会議室に変更したいというふうに考えております。

○委員長（西田 真） 井上委員。

○委員（井上 正治） 利用者は大体どの程度ぐらいあったのかという、例えば日でもいいですし、月でもよろしいんで。把握されてますか。

○委員長（西田 真） 池内課長。

○スポーツ振興課長（池内 章彦） 今の利用者につきましては、大体月平均40人から50人というふうな利用者になってます。

○委員長（西田 真） 井上委員。

○委員（井上 正治） 先ほど説明がありましたように器具の老朽化、これはもう全く論外の話であって、危ないような老朽化したもの使ってけがでもされたら大変ですので、いたし方ないという思いはございますけど、しっかりと利用者の方には説明をしていただいて、このような形でこうなりますよということをお願いしたいというふうに思います。それでいいです、よろしく申し上げます。

○委員長（西田 真） よろしいか。

○委員（井上 正治） はい。

○委員長（西田 真） ほかにありませんか。よろしいか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（西田 真） 質疑を打ち切ります。

それでは、討論に入ります。

まず、第115号議案について、討論はありませんか。

上田委員。

○委員（上田 伴子） この利用料、利用料じゃなくて、この料金の改正については、消費税増税ということで、107号議案同様の理由で反対をいたします。

○委員長（西田 真） ほかにありませんか。

井上委員。

○委員（井上 正治） 賛成討論をいたします。

第3次行政改革大綱における受益者負担の適正化ということを目的に、今回この見直しがされておるわけでございます。私も107号議案同趣旨によ

り、よって、賛成の意見といたします。

○委員長（西田 真） ほかにありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（西田 真） 討論を打ち切ります。

賛成、反対の意見がありますので、挙手により採決いたします。

第115号議案は、原案のとおり可決すべきことに賛成の委員の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

○委員長（西田 真） 賛成多数により、第115号議案は、原案のとおり可決すべきものと決定いたしました。

次に、第116号議案について、討論はありませんか。（「117号」と呼ぶ者あり）

116号議案。

上田委員。

○委員（上田 伴子） この引き上げの件については、

107号議案同様の理由で反対をいたします。

○委員長（西田 真） ほかにありませんか。

井上委員。

○委員（井上 正治） 賛成討論をいたします。

107号議案同趣旨により、よって、賛成の意見といたします。

○委員長（西田 真） ほかにありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（西田 真） 討論を打ち切ります。

賛成、反対の意見がありますので、挙手により採決いたします。

第116号議案は、原案のとおり可決すべきことに賛成の委員の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

○委員長（西田 真） 賛成多数により、第116号議案は、原案のとおり可決すべきものと決定いたしました。

続いて、第117号議案について、討論はありませんか。

上田委員。

○委員（上田 伴子） 学校施設の使用料の件に関して、107号議案同様の理由により、反対の討論と

いたします。

○委員長（西田 真） ほかにありませんか。

井上委員。

○委員（井上 正治） 賛成討論をします。

107号議案同趣旨により、よって、賛成の意見といたします。

○委員長（西田 真） ほかにありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（西田 真） 討論を打ち切ります。

賛成、反対の意見がありますので、挙手により採決いたします。

第117号議案は、原案のとおり可決すべきことに賛成の委員の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

○委員長（西田 真） 賛成多数により、第117号議案は、原案のとおり可決すべきものと決定いたしました。

次に、第118号議案、豊岡市立健康福祉センターの設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例制定についてを議題といたします。

当局の説明を求めます。

社会福祉課、原田課長。

○社会福祉課長（原田 政彦） それでは、議案書135ページをごらんください。第118号議案、豊岡市立健康福祉センターの設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例制定についてご説明をいたします。

139ページの条例案要綱によりご説明をさせていただきます。本議案は消費税率の引き上げ分を使用料に転嫁するものでございます。豊岡健康福祉センター、城崎健康福祉センター、竹野健康福祉センター、日高健康福祉センター、出石健康福祉センター及び但東健康福祉センターの使用料並びに日高東部健康福祉センターの利用料金の限度額を引き上げようとするものでございます。附則につきましては、2に掲載のとおりでございます。今までの説明と同じでございますので、省略いたします。

なお、140ページ以降に新旧対照表を添付しておりますので、ご清覧をください。説明は以上です。

○委員長（西田 真） よろしいか。

説明は終わりました。

質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（西田 真） ありませんか。

質疑を打ち切ります。

討論はありませんか。

上田委員。

○委員（上田 伴子） 118号議案においても、107号議案の討論と同じ内容で、反対の討論といたします。

○委員長（西田 真） ほかにありませんか。

井上委員。

○委員（井上 正治） 賛成討論をいたします。

107号議案の同趣旨により、よって、賛成の意見といたします。

○委員長（西田 真） ほかにありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（西田 真） 質疑を打ち切ります。

賛成、反対の意見がありますので、挙手により採決いたします。

本案は、原案のとおり可決すべきことに賛成の委員の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

○委員長（西田 真） 賛成多数により、第118号議案は、原案のとおり可決すべきものと決定いたしました。

次に、第119号議案、豊岡市立老人福祉センターの設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例制定について、ほか1件を一括議題といたします。

なお、説明、質疑は一括で行い、討論、表決は個別に行いますので、ご了承願います。

当局の説明を求めます。

高年介護課、恵後原課長。

○高年介護課長（恵後原孝一） 高年介護課所管分の第119号議案、第120号議案につきまして、ご説明いたします。

それでは、議案書144ページをごらんください。

第119号議案、豊岡市立老人福祉センターの設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例制定についてご説明いたします。

146ページをお願いします。改正の内容につきまして、条例案要綱によりましてご説明いたします。本議案は、消費税率の引き上げ分を使用料に転嫁するものであり、長寿園及び竹野老人福祉センターの利用料金の限度額を引き上げようとするものです。なお、附則第1項で、この条例は、令和2年4月1日から施行することとしています。

なお、147ページ以降に新旧対照表を添付しておりますので、ご清覧ください。

続きまして、議案書のほうは149ページをごらんください。第120号議案、豊岡市立健康増進施設の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例制定についてご説明いたします。

151ページをお願いします。改正の内容について条例案要綱によりご説明いたします。本議案は、消費税率の引き上げ分を使用料に転嫁するものであり、竹野多目的屋内運動広場、出石多目的屋内運動場及び但東健康増進センターにおける使用時間に係る利用料金の限度額を引き上げ、介護予防事業、健康づくり事業等に関する事業以外に使用する場合の利用料金の限度額に乗算される倍率を引き下げようとするものです。なお、附則につきましては、第1条でこの条例は令和2年4月1日から施行することとしています。

152ページ以降に新旧対照表を添付しておりますので、ご清覧ください。説明は以上です。

○委員長（西田 真） 説明は終わりました。

質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（西田 真） よろしいか。

質疑を打ち切ります。

それでは、討論に入ります。

まず、第119号議案について、討論はありませんか。

上田委員。

○委員（上田 伴子） 第119号議案におきまして

も、先ほどの107号議案の同様の趣旨により、反対の討論といたします。

○委員長（西田 真） ほかにありませんか。

井上委員。

○委員（井上 正治） 賛成討論を行います。

第107号議案と同趣旨により、よって、賛成の意見といたします。

○委員長（西田 真） ほかにありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（西田 真） 討論を打ち切ります。

賛成、反対の意見がありますので、挙手により採決いたします。

第119号議案は、原案のとおり可決すべきことに賛成の委員の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

○委員長（西田 真） 賛成多数により、第119号議案は、原案のとおり可決すべきものと決定いたしました。

次に、第120号議案について、討論はありませんか。

上田委員。

○委員（上田 伴子） 第120号議案におきましても、先ほどの107号議案同様の理由により、反対の討論といたします。

○委員長（西田 真） ほかにありませんか。

井上委員。

○委員（井上 正治） 賛成の討論をいたします。

第107号議案の同趣旨により、よって、賛成の意見といたします。

○委員長（西田 真） ほかにありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（西田 真） 討論を打ち切ります。

賛成、反対の意見がありますので、挙手により採決いたします。

第120号議案は、原案のとおり可決すべきことに賛成の委員の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

○委員長（西田 真） 賛成多数により、第120号議案は、原案のとおり可決すべきものと決定いた

しました。

次に、第121号議案、豊岡市立総合健康ゾーン健康増進施設の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例制定についてを議題といたします。

当局の説明を求めます。

健康増進課、宮本課長。

○健康増進課長（宮本 和幸） それでは、154ページをごらんください。

第121号議案、豊岡市立総合健康ゾーン健康増進施設の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例制定について説明いたします。

156ページをお願いします。改正の内容につきましては、条例案要綱により説明いたします。本議案は、消費税の引き上げ分を利用料金の限度額に転嫁することと、それから、スタジオ単体での利用限度額を明確にするために改正しようとするものです。次に、附則第1項で、この条例は令和2年4月1日から施行することとしています。説明は以上です。

○委員長（西田 真） 説明は終わりました。

質疑はありませんか。

福田委員。

○委員（福田 嗣久） この100何号やったやな。

○委員長（西田 真） 121。

○委員（福田 嗣久） 121号ですけれども、ウェルストーク部分の、これも限度額の新設ですけども、これについては団体のほう側は値上げされる予定なんでしょうか。

○委員長（西田 真） 宮本課長。

○健康増進課長（宮本 和幸） ウェルストークにつきましては、10月1日の消費税改正のときからその分は上げています。

○委員長（西田 真） 福田委員。

○委員（福田 嗣久） この金額で上がってるわけですか。

○委員長（西田 真） 宮本課長。

○健康増進課長（宮本 和幸） これはあくまで限度額ですので、実際の利用料金についてはもっと低い金額になってます。以上です。

- 委員長（西田 真） 福田委員。
- 委員（福田 嗣久） もう一つ、月極めの五千何百円だったかな、その料金があったと思いますけど、これはどうされますか。
- 委員長（西田 真） 宮本課長。
- 健康増進課長（宮本 和幸） 月極めの分につきましても、以前は一般のレギュラーが5,940円でしたが、今は6,050円ということになっております。以上です。
- 委員（福田 嗣久） はい、了解しました。
- 委員長（西田 真） 福田委員、よろしいか。
ほかにありませんか。
〔「なし」と呼ぶ者あり〕
- 委員長（西田 真） よろしいか。
質疑を打ち切ります。
討論はありませんか。
上田委員。
- 委員（上田 伴子） 121号議案におきましても、107号議案同様の趣旨により、反対の討論といたします。
- 委員長（西田 真） ほかにありませんか。
井上委員。
- 委員（井上 正治） 賛成討論を行います。
第107号議案同様の趣旨により、よって、賛成の意見といたします。
- 委員長（西田 真） ほかにありませんか。
〔「なし」と呼ぶ者あり〕
- 委員長（西田 真） 討論を打ち切ります。
賛成、反対の意見がありますので、挙手により採決いたします。
本案は、原案のとおり可決すべきことに賛成の委員の挙手を求めます。
〔賛成者挙手〕
- 委員長（西田 真） 賛成多数により、第121号議案は、原案のとおり可決すべきものと決定いたしました。
次に、第143号議案、豊岡市立歴史博物館「但馬国府・国分寺館」の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例制定についてを議題といたし

ます。
当局の説明を求めます。
教育総務課、橋本参事。

- 教育総務課参事（橋本 明宏） では、143号議案でございます。議案書は251ページをごらんください。豊岡市立歴史博物館「但馬国府・国分寺館」の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例制定についてでございます。

理由としましては、第3次行政改革大綱における受益者負担の適正化に伴い、入館料の一部を引き上げるもので、112号議案、113号議案でもございましたものと同様に、市内の博物館、美術館等の料金体系を統一するものでございます。

改正の内容につきましては、253ページの条例案要綱をごらんください。1番、改正の内容でございます。小学生から高校生までの入館料を引き上げ、大学生に係る入館料を一般の区分から高校生の区分の入館料とし、区分の高校生とあるのを学生に改めるというものであります。附則としまして、(1)では、令和2年4月1日からの施行と、(2)では、この条例の施行の日以後に許可を受ける入館について適用し、同日前に許可を受けている入館については、なお従前の例によることとしております。

254ページには、新旧対照表を掲載しておりますので、ご清覧をいただければと思います。以上です。

- 委員長（西田 真） 説明は終わりました。
質疑はありませんか。
竹中委員。

- 委員（竹中 理） 入場料はわかったんですけど、この中でいろんな体験があったと思うんですけども、それは値上げはどうされる予定でしょうか。

- 委員長（西田 真） 橋本参事。

- 教育総務課参事（橋本 明宏） 体験メニューの料金につきましては、これまでどおり据え置きでと考えております。

- 委員（竹中 理） はい、わかりました。

- 委員長（西田 真） よろしいか。

- 委員（竹中 理） はい。

○委員長（西田 真） 福田委員。

○委員（福田 嗣久） 但馬国府・国分寺館ですけれども、この料金が先ほど戻ってモンゴル館とか伊藤清永、大体同じような状況なんですか。

○委員長（西田 真） 橋本参事。

○教育総務課参事（橋本 明宏） はい、その3館で統一を図ったものでございます。

○委員長（西田 真） 福田委員。

○委員（福田 嗣久） 一つ、小学校とか中学校の課外教室なんかで使っておられる例はあるんでしょうか。

○委員長（西田 真） 橋本参事。

○教育総務課参事（橋本 明宏） 課外授業ですとか、はい、PTA行事などをご利用いただいていることはございます。

○委員長（西田 真） 福田委員。

○委員（福田 嗣久） その入場料について値上げになるわけですか。

○委員長（西田 真） 橋本参事。

○教育総務課参事（橋本 明宏） ここにはございませんが、減免の規定を設けておりまして、県内の小・中学生につきましてははひょうごっ子ココロンカードというのが配られておりまして、その提示で無料で入館をいただいております。

○委員長（西田 真） 福田委員。

○委員（福田 嗣久） そうすると、先ほどの3館につきまちは、ココロンカードでしたかいな、それで全て無料ということによろしいのかな。

○委員長（西田 真） 橋本参事。

○教育総務課参事（橋本 明宏） はい、そのようにご理解いただければと思います。

○委員（福田 嗣久） はい、了解いたしました。

○委員長（西田 真） よろしいか。

○委員（福田 嗣久） はい、結構です。

○委員長（西田 真） ほかにありませんか。よろしいか。

質疑を打ち切ります。

討論はありませんか。

上田委員。

○委員（上田 伴子） 第143号議案におきましても、107号議案同様の趣旨により、反対の討論といたします。

○委員長（西田 真） ほかにありませんか。

井上委員。

○委員（井上 正治） 賛成の討論を行います。

107号議案同様の趣旨により、よって、賛成の意見といたします。

○委員長（西田 真） ほかにありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（西田 真） 討論を打ち切ります。

賛成、反対の意見がありますので、挙手により採決いたします。

本案は、原案のとおり可決すべきことに賛成の委員の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

○委員長（西田 真） 賛成多数により、第143号議案は、原案のとおり可決すべきものと決定いたしました。

ここで委員会を暫時休憩いたします。再開は10時45分。

午前10時32分 委員会休憩

午前10時45分 委員会再開

○委員長（西田 真） それでは、委員会を再開いたします。

次に、第146号議案、豊岡市立国民健康保険資母診療所の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例制定についてを議題といたします。

当局の説明を求めます。

健康増進課、浅田参事。

○健康増進課参事（浅田 英稔） 議案書の265ページをお願いいたします。第146号議案、豊岡市立国民健康保険資母診療所の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例制定についてご説明をいたします。

本案は、国民健康保険法の改正に伴いまして、引用する項番号を改めるため、所要の改正を行うものでございます。内容につきましては、268ページ

の新旧対照表によりご説明をいたします。

条例第1条中の国民健康保険法第82条第3項を、第82条第7項に改めるものでございます。なお、附則で、この条例は令和2年4月1日から施行することとしております。説明は以上でございます。

○委員長（西田 真） 説明は終わりました。

質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（西田 真） 質疑を打ち切ります。

討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（西田 真） 討論を打ち切ります。

お諮りいたします。本案は、原案のとおり可決すべきものと決定してご異議はありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（西田 真） ご異議なしと認めます。よって、第146号議案は、原案のとおり可決すべきものと決定いたしました。

次に、第151号議案、豊岡市立小中学校適正規模・適正配置審議会条例制定についてを議題といたします。

当局の説明を求めます。

教育総務課、永井課長。

○教育総務課長（永井 義久） 282ページをごらんください。第151号議案、豊岡市立小中学校適正規模・適正配置審議会条例の制定につきまして、ご説明をさせていただきます。285ページの条例案要綱に基づいてご説明をさせていただきます。

まず、1つ目の設置につきましてです。小・中学校の適正規模・適正配置に関する計画を策定するために審議会を置くというものでございます。2の所掌事務でございます。審議会は教育委員会の諮問に応じて、適正規模・適正配置等のことを審議して答申をすることとしています。それから、3の組織でございます。委員会のメンバー構成でございますけれども、学識経験者、それから市民等としておりますが、この内容につきましては、教育・保育関係者、それから、市民の内訳としてPTA、子育てグループ、区長会等を想定しております。その他、行政機

関の関係者ということで、子育てセンター、民生委員さんということで、18名以内を予定しています。それから、4の任期でございます。任期につきましては、任命の日から所掌事務終了する日までということで、答申の日までとしております。2つ飛ばしまして、部会でございます。審議会は必要に応じて部会を置くということでございますが、地域ごとに異なる内容もございますので、その内容に応じた部会を開くということとしております。その他につきましては、ごらんとおりでございます。よろしくお願いたします。

○委員長（西田 真） 説明は終わりました。

質疑はありませんか。

上田委員。

○委員（上田 伴子） 審議委員の任命においては教育委員会が任命するとありますけれども、今回の議場でもいろいろと議論がありましたが、この第三機関の任命というような議論もあったと思うんですけれども、その考えは改めてありませんか。

○委員長（西田 真） 永井課長。

○教育総務課長（永井 義久） 教育委員会の任命ということにつきましては、公共施設マネジメントと切り離して、教育委員会の子供の視点で任命ということでございますし、その公平性の担保ということにつきましては、地域の部会の中でいろんな意見を聞いたり、それから、アンケート等もさせていただくこともあるかもわかりませんが、そういった意見を取り入れさせていただいて、公正な審議ができればというふうに思っています。

○委員長（西田 真） 上田委員。

○委員（上田 伴子） この中にもありますように、地域によってすごく内容が、地域性とか学校の規模とかいろんな意味において地域性がすごくありますので、そこら辺での公平性をきっちりと担保して、そういう全て網羅したような審議ができるような委員さんを選ばれるような感じでの、そういう公正な委員さんが任命されるという担保は何でしょうか。

○委員長（西田 真） 永井課長。

○教育総務課長（永井 義久） 公正な委員さんが担保されるっていうことにつきましては、まず、豊岡市、6地域もございますし、それから、6地域の中でも特に極小規模と言われるところもありますので、特に極小規模と言われる、複式学級が特に進んでいる地域の区の方々、それから学校関係者、PTA等の方も入っていただき、全体的に地域性も見ながら委員の任命をさせていただきたいと思います。

大きな議論をしていきますので、なかなか細かいところまでっていうことになりますと、先ほど申し上げました部会の中で地域のことに応じた内容の議論をさせていただきたいというふうに思っています。

○委員長（西田 真） 上田委員。

○委員（上田 伴子） 今もおっしゃいましたように、すごく小さい規模の学校もたくさん今、出てきてますし、その地域性をしっかりと見ていただいて、部会も重視していただきながら、ぜひいい内容になりますように、よろしく願いいたします。

○委員長（西田 真） よろしいか。

○委員（上田 伴子） はい。

○委員長（西田 真） ほかにありませんか。

福田委員。

○委員（福田 嗣久） 本議会に引き続きですけれども、まず、審議会委員さんの選任でよく思うのが、資料なんかつくられますわね、委員会前に。どういかな、資料をなるべく早く提供してあげてほしいなということが一つ。ここで考えたら、この文教でもそうなんだけど、資料が前日ぐらいに届いて見る間もないということになってくるので、資料の提出はできるだけ早く心がけていただきたいというところが一つと、それから、本会議で申し上げましたけれども、委員の選任で、あんまり無理をすること、というのは、申し上げたように遠いとこの人を選ぶと本当に大きな負担になるっていうことは確かなので、その辺の配慮、それからもう一つ、男女共同参画で、50%50%って常に市長もよう言われるんだけど、そんなことばかりこだわって審議ができなければ意味がないんで、余り形、

形で1%、5%こだわってする必要もないんじゃないかというふうに思っております。だから、参加しやすい形をつくるということが第一義だというふうに、大変大事な課題ですので、思っておりますんで、その辺も、もう決まってるんかもしれませんが、配慮をしていただきたいということと、先ほどおっしゃった部会のあり方ですけれども、18人で先ほどおっしゃったPTAとか子育てのグループとか、区長会とか、いっても本当に限られた人になるんで、私は、これだけ大きな課題とすれば、その部会のあり方っちゃうの、やっぱり地域ごとで考えるべきなんだろうなというふうに思っていますので、その途中途中に部会をつくるというのは、地域での部会を設置していただきたいなということを希望してるんですけど、その辺の考えはどうなのかということが、まず聞かせていただきたいです。

○委員長（西田 真） 永井課長。

○教育総務課長（永井 義久） まず1点目の資料の配付につきましては、基本的には1週間前までにはお送りするように努めさせていただきたいと思っておりますし、最悪当日というものもあるかもわかりませんので、そのあたりはご容赦いただきたいと思います。

それから、委員の選任についての遠方の方からということでございますが、本当に回数を、今年度につきましては2回まで、それから、2020年度につきましては最大5回程度というふうに考えておりますので、そのあたりはご容赦いただかなければならないところがあるかもわかりませんが、学識経験者につきましては、遠方の方を予定させていただいております。地域の方につきましては、本当に議論する内容を重点に置きますので、遠方の方もご無理を申し上げることがあるかもわかりません。想定はしておりませんので、そのあたりは今後の中で検討させていただきたいと思っております。

それから、部会のあり方につきまして、地域性ということですが、今のところは必要に応じてということを考えておりますが、今の審議会のメンバーの18人を分けて部会というようなことには、な

らないというふうに思っています。部会のほうにも入っていただく委員もあろうかと思いますが、基本的には部会のほうについては、その地域のことをより詳しくご存じであったり、具体的に意見とか課題とかをご存じのある方に入っていたいただいたほうが、より深い議論ができるというふうに思っていますので、全く関係ない地域のほうからその議論をするということは余り意味がないというふうにも思っておりますので、そのあたりは地域性といいますか、地域の内容をご存じの方に入っていただいて部会をつくっていききたいというふうに今のところは考えています。

○委員長（西田 真） 福田委員。

○委員（福田 嗣久） それと、もう一つ、守秘のことも聞かせていただいて、確かに名前出してしまったらちょっと問題があるなという気がするんですけども、やっぱり途中経過で情報を出す場合、名前を消していただいたりして、やっぱりどういう議論になってるかということも情報開示をすべきだろうなというふうに思っていますので、その辺も配慮していただきたいということの一つと、それから、まず、考え方として、もう例えははっきり言いますが、但東町であれば3小を1つにというようなことになりますわな。そういう単純な想定をまず考えてもらえるのか。単純などうか、もう理屈の上で、但東町だったら3つを1つにするというのが妥当なことかと思うけども、出石の場合だったら、例えば寺坂をどこへひっつけるかという問題になってくると思うけど、先に言うてしまったらぐあい悪いけどね。そういう単純な形を考え、旧の町域で縛っていくような、そういうお考えなのか、少し触れていただいたらと思いますけど。

○委員長（西田 真） 永井課長。

○教育総務課長（永井 義久） まず、委員会の守秘義務の関係です。第1回目の審議会につきましては、まず、市内全域のいろんな課題を出ささせていただきますので、そのあたりは公開の会議になろうかと思っています。内容に応じては非公開の部分があるかもわかりません。2回目以降につきましては、基本

的に具体的な中身をご議論いただいて、自分の地域の出身の委員が後ろ向きのことを言っとるっていうようなことで、誹謗中傷ってことがあるかもわかりませんので、そのあたりは、会議は基本的に傍聴なしの非公開とさせていただきますけれども、資料、それから委員の名前を伏せて、会議録というものは公開というか、ホームページで出していききたいというふうに思っています。

それから、2つ目に言われた、単純に3つの学校を1つにっていうことではなく、場合によってはそういうこともあるかもわかりませんが、夢のあるというようなこともあろうかと思っておりますので、少し足し算では、くっつけるという部分だけではなく、新たなものを付加するということも考えながら、中身につきましては検討していきたくと思っています。具体的なことはこれからになりますので、内容についてはお答えできるところはございません。

○委員（福田 嗣久） はい、わかりました。

○委員長（西田 真） 福田委員。

○委員（福田 嗣久） もう一つ。常に言われております複式学級の弊害ということ、余り私自身はよくわかりませんので、全国的な考え方というか統計の中で、複式学級になると学力が落ちる、そういう傾向があるんでしょうか。これは専門家のことなんでしょうけども。この辺はどうなんでしょう。あんまり細かいとこじゃなくて、広く見て。

○委員長（西田 真） 飯塚課長。

○こども教育課長（飯塚 智士） 済みません、こども教育課、飯塚です。

○委員長（西田 真） はい、どうぞ。

○こども教育課長（飯塚 智士） 済みません、今、複式学級についてのお尋ねがありました。複式学級の授業の様子はご存じのとおり、2学年同時に同じ教室で1人の教員が授業をするということをやっております。なので、まず、教員にとっての負担は2教科の教材研究を常にしていかなければならないということ。そのためには、当然放課後等の時間は準備にとられてしまう。それから、学年によって

特質が違いますので、片方の学年の授業をしていて、その間は後ろで待っている、またずらして次に行く、ということは、教師はこの教材研究以上に子供たちの特質に応じた話し方等々をしていかなければならないということを考えますと、教材研究の時間は単学級に比べて当然短くなるということは予想されます。

それから、あと、必要な学力として子供たちが話し合いに応じて対応力を身につけていくというものもあるんですが、複式学級の場合、最大でも7人程度ぐらいしかおりませんので、基本的には多くの、今現状の複式では2人、3人のところが多いですので、なかなか対話を持って答えを導き出していく、もしくは人と違う考え方を聞いていくっていうことはできません。そのために教員は何をしているかという、教員自体がその子と違った考えを出したりして考えさせるということをやっておりますが、やはりそのあたりには限界があるのかなというふうに思っています。となりますと、通常の学級と複式の学級において、そういった対話によって身につける力というのはつきにくいと考えております。

それと、あとは、教師のかけれる時間が単学級に比べて半分になってしまう。ということは、基礎的な学力につきましても、半分の時間しか見れていないという現状があります。そのあたりについても非常に難しい課題があるのかなと。ただ、一様に、だからつかないとかつくということは言えないかなというふうには思っております。以上です。

○委員長（西田 真） よろしいか。

○委員（福田 嗣久） はい、わかりましたけど、難しいなと思って聞いておったんだけどね。頑張ってください。

○委員長（西田 真） ほかにありませんか。

田中副委員長。

○委員（田中藤一郎） 短目に。まず、どうしても我々も非常に関心がある部分であるので、議会の報告並びにそういった意見交流会みたいな部分があるのか、考えられてるのか、一つ教えていただきたいっていうのと、あと、部会制というふうな部

分では大体どれぐらいの人数を考えられているのかということと、もう1点、やっぱり部会の上がってくる内容に関しまして、審議会ではどうしても埋没する可能性も非常にあるのではないかなというような部分で、やっぱりそういったところの担保的な部分をどのようにして考えられてるのかということをお願いしたいなど。

それから、もう1点だけ、済みません。審議会では各地域ごとにはしっかりとメンバーには入っていただけるかどうかを教えてください。

○委員長（西田 真） 永井課長。

○教育総務課長（永井 義久） 議会報告につきましては、まず、答申前後になるうかと思えますし、大きく何らかの変化と申しますか、情報提供させていただく機会はその都度持たせていただきたいというふうに思っています。

それから、部会の人数につきましては現在のところ想定はしておりませんが、本当に議論の必要な方に入っていただくようなことで部会を開かせていただきたいというふうに思っています。ひょっとしたら地域によって、入っていただくメンバーが変わってくる可能性もありますので、そのあたりは柔軟に考えたいと思います。

それから、部会と審議会との関係と申しますか、埋没しないかというようなことですが、そのあたりは審議会のメンバーさんでありますとか、当然事務局である教育委員会のほうも入ってきますので、部会で話されたことが審議会にも伝わり、そのことにどう対応していくかっていうことも十分審議会の中の議論というふうに置きかえて話を進めていきたいというふうに思っています。

それから、もう一つ、ごめんなさい、メン……（「審議会に各地域の」と呼ぶ者あり）各地域、はい、恐れ入ります。市内6地域ございますので、そのあたりをやっぱり入っていただけるような配慮と申しますか、考えて進めたいと思っておりますが、特に学校の極小規模があるような学校の地域というところを中心に考えたいというふうに思っています。ちょっと今、具体的にメンバー構成、検討を進めて

いる最中ですので、具体的にどこがってということは説明できるものがございませんけども、そのあたりは全地域を配慮して、極小規模、小規模の方が入っていただけるような審議会にしたいというふうに思っています。

○委員長（西田 真） 田中副委員長。

○委員（田中藤一郎） しっかりとよろしく願います。

○委員長（西田 真） よろしいか。

○委員（田中藤一郎） はい。

○委員長（西田 真） ほかにありませんか。
井上委員。

○委員（井上 正治） 1件お聞きしたいんですけども、この少子化というのが非常に今のような課題を持ってらるんですけども、実は小規模校が生き残る方策としてさまざまな地域で、例えば、どう言ったらいいのかな、小規模特認校みたいな形かな。例えばこの近くだったら竹野南小学校だとか、高校でいえば村岡高校みたいに、何か特化したようなことが実際行われてると思うんですけども、市としてはそのような取り組みを今後考えられていくのかどうか、その辺の方向性というのは何かお持ちなのか、ちょっとお尋ねします。

○委員長（西田 真） 永井課長。

○教育総務課長（永井 義久） 学校選択制っていう部分の一つに小規模特認校っていうのがあるかと思えます。養父市もそうですけども、神戸のほうでも六甲のほうでそういったことをされてる学校がございます。基本的に10人前後の学年の中で、数名をほかの地域から何か募集するみたいなところがあって、本当に人口減少といいますか、その部分を解消するような制度ではないのではないかっていうことや、メリットもありましようけども、デメリットっていいいますか、ほかの地域からの通学的手段でありますとか、市ではできなかった場合に保護者が送迎するとか、いろんな課題が、広い地域ですので、出てくるかと思いますが、そのあたりで今のところ検討ということはしておりませんが、非常に豊岡の部分ではメリット、ほかの地域の状況見と

りまして人口減少そのものを解消するような手段にはなっておりませんっていうのが見えてきておりますし、非常に検討材料として言えるかどうかっていうことは後ろ向きかなというふうには思っております。

○委員長（西田 真） 井上委員。

○委員（井上 正治） そういう事例をやはり一度、いろんなとこでやとられるような事例があると思いますので、やるやらない別として、こういう事例があるということについては、やはり皆様にこんな事例もありますよということ提示していただいて、議論の中の項目として上げていただく必要はあるかなというふうな思いでおります。

それからもう1点、例えば審議委員会の皆さんの選出について、大体现実の小学校のPTAだとかの方の親御さんが出てこられるとは考えられるんですけども、実は次の、その下の保育園の保護者等の選任ということも、私は次の小学校のステップアップするにしても、やはり次の小学校に入るお子さんをお持ちですので、その辺の委員としてのお願ひもするべきではないかなと思いますけど、その辺の考えはいかがですか。

○委員長（西田 真） 永井課長。

○教育総務課長（永井 義久） 恐れ入ります、保護者の代表の中には、おっしゃられた就学前の保護者も入っていただくようにしておりますし、全く別の子育てグループというところからも参加いただくというふうには思っています。

○委員（井上 正治） はい、わかりました。

○委員長（西田 真） よろしいか。

○委員（井上 正治） はい。

○委員長（西田 真） ほかにありませんか。
上田委員。

○委員（上田 伴子） 1点確認というか、第1回の審議会は公開でということで、傍聴もできるということでしょうか。

○委員長（西田 真） 永井課長。

○教育総務課長（永井 義久） はい、具体的な中身に入りますまでの前段の豊岡市の課題であります

とか、そういった、児童数とか、小規模校の現状でありますとか、複式とか、豊岡市の取り組みみたいなものから入らせていただいて、まず情報共有、課題の認識っていうものをさせていただくような会議になろうかと思っていますので、その部分は公開というふうに考えております。

はい、済みません。まず、前段の中で公開、非公開ということを諮らせていただいて、非公開事案というものが第1回の中でも、もしあるようなことがありましたら、その部分だけは傍聴の方は退出いただいて、非公開というふうなこともあろうかと思っておりますので、そのあたりは会議の中で、前段で判断といたしますか、させていただけたらというふうに思います。

○委員長（西田 真） 上田委員。

○委員（上田 伴子） もう1点。2回目以降は非公開で、委員の名前を伏せて審議会の内容を会議録としてホームページなどに載せるということでしたが、大体審議会終了後どれぐらいで載せられるのでしょうか。

○委員長（西田 真） 永井課長。

○教育総務課長（永井 義久） 想定で、ちょっとはしっかりと申し上げられまけんけども、議論の中身の部分によりまして変わってくるかと思っています。会議録のテープ起こしというものを今のところは事務局の職員の中ですることにしておりますので、できるだけ早く、1週間ということは申し上げにくいですが、できるだけ早く対応させていただくようなことはしたいというふうに思っています。

○委員長（西田 真） 上田委員。

○委員（上田 伴子） できるだけ早くお願いします。

○委員長（西田 真） ほかにありませんか。よろしいか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（西田 真） 質疑を打ち切ります。

討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（西田 真） 討論を打ち切ります。

お諮りいたします。本案は、原案のとおり可決すべ

きものと決定してご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（西田 真） ご異議なしと認めます。よって、第151号議案は、原案のとおり可決すべきものと決定いたしました。

次に、第155号議案、令和元年度豊岡市国民健康保険事業特別会計（事業勘定）補正予算（第3号）ほか1件を一括議題といたします。

当局の説明を求めます。

市民課、定元課長。

○市民課長（定元 秀之） 359ページをごらんください。第155号議案、令和元年度豊岡市国民健康保険事業特別会計（事業勘定）補正予算（第3号）についてご説明いたします。

本案は、第1条で歳入歳出予算の総額に、歳入歳出それぞれ976万6,000円を追加し、予算の総額を87億1,440万6,000円とするものです。また、第2条では債務負担行為を設定しています。

375、376ページをごらんください。歳出補正予算総括表によりご説明いたします。総務費の159万1,000円の増額は、人件費並びに制度改正によるシステム改修の業務の増額及び本年度実施したファイアウォール更新業務の不用額の減額によるものです。保健事業費の6万2,000円の増額につきましては、人件費に係るものです。基金積立金の811万3,000円の増額は、県支出金や一般会計繰入金を精算した後、剰余金等を財政調整基金に積み立てるものです。

戻っていただきまして、373、374ページの歳入補正予算総括表をごらんください。国民健康保険税の6万2,000円の増額は、財源調整分です。県支出金の285万2,000円の増額は、本年度の特定健康診査負担金が確定したこと、並びに制度改正によるシステム改修の補助金です。繰入金685万2,000円の増額は、人件費、本年度の財政安定化支援事業交付税が確定したことによる増額。ファイアウォール機器の更新実施による不用額の減額です。

次に、債務負担行為の設定についてです。362ページをごらんください。業務内容としましては特定健康診査業務で、毎年実施していますすこやか健診について、令和2年度の実施に当たり今年度中に契約を締結する必要があることから債務負担行為を設定するもので、期間を令和2年度、限度額を4,682万6,000円と定めるものであります。説明は以上です。

○委員長（西田 真） 説明は終わりました。

質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（西田 真） 質疑を打ち切ります。

討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（西田 真） 討論を打ち切ります。

お諮りいたします。第155号議案及び第156号議案は、原案のとおり可決……（「まだ155号議案だけ」と呼ぶ者あり）155号議案だけ。（「はい」と呼ぶ者あり）156号議案も続けてやってくださいって言いましたよね。

○市民課長（定元 秀之） 済みません、失礼します。

では……。

○委員長（西田 真） ちゃんと聞いてもらわな困りますんで。

○市民課長（定元 秀之） はい、済みません、済みません。

378ページをごらんください。第156号議案、令和元年度豊岡市後期高齢者医療事業特別会計補正予算（第2号）についてご説明いたします。

本案は、第1条で歳入歳出予算の総額に、歳入歳出それぞれ188万4,000円を減額し、予算の総額を12億7,021万3,000円とするものです。

380ページをごらんください。歳出の主な内容につきましては、第1表によりご説明いたします。総務費の188万4,000円の減額は、人件費の増額並びに本年度実施したファイアウォール更新業務の不用額による減額です。

戻っていただきまして、379ページをごらんく

ださい。歳入の繰入金188万4,000円の減額は、事務費繰入金の減額並びに人件費の増額です。説明は以上です。よろしくご審議賜りますよう、お願いします。済みませんでした。

○委員長（西田 真） 終わりましたね。

○市民課長（定元 秀之） はい、済みませんでした。

○委員長（西田 真） 説明は終わりました。

質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（西田 真） 質疑を打ち切ります。

討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（西田 真） 討論を打ち切ります。

お諮りいたします。第155号議案及び第156号議案は、原案のとおり可決すべきものと決定してご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（西田 真） ご異議なしと認めます。よって、第155号議案及び第156号議案は、いずれも原案のとおり可決すべきものと決定いたしました。

次に、第157号議案、令和元年度豊岡市介護保険事業特別会計補正予算（第3号）を議題といたします。

当局の説明を求めます。

高年介護課、恵後原課長。

○高年介護課長（恵後原孝一） それでは、390ページをごらんください。第157号議案、令和元年度豊岡市介護保険事業特別会計補正予算（第3号）についてご説明いたします。

本案は、第1条で歳入歳出予算の総額に、それぞれ872万7,000円を追加し、総額をそれぞれ100億1,459万円とするものです。

第2条で債務負担行為を設定しています。393ページをごらんください。第2表債務負担行為ですが、老人福祉計画・第8期介護保険事業計画策定支援等業務について、期間を令和2年度、限度額を429万円とするものです。

補正の主な内容につきまして、事項別明細書でご

説明いたしますので、400ページをお願いします。
まず、歳出ですが、総務費56万5,000円の補正は、次年度に策定します老人福祉計画・第8期介護保険事業計画に関し、基礎資料となります市民ニーズや介護サービスの必要量を把握するために実施します市民アンケートに要する費用です。この市民アンケートは来年3月下旬ごろに送付したいと考えております。次に、保険給付費につきましては、それぞれ年度末の給付必要額を推計して、介護サービス等諸費の分を2,060万円減額し、不足が見込まれる介護予防サービス等諸費630万円と、1枚めくっていただいて、一番上の枠の高額介護サービス費1,430万円を増額し、総額は変えずに予算を組み替えるものです。高額介護サービス費の増額補正につきましては、昨年8月の制度改正で利用者負担割合に3割負担が導入されたため、高額介護サービス費の上限額を超える支給対象者が増加していることによるものです。

次に、2枠目からの地域支援事業費ですが、403ページ、説明欄の真ん中どころの予防給付基準通所介護事業費の400万1,000円の増額については、1人当たりの月額単価のほうが計画時の単価より下回ってはおりますけれども、利用者がふえているということがありまして、予算不足が見込まれるため補正するものです。

また、405ページ、上から4行目の食の自立支援事業費149万2,000円の増額につきましても利用者の増加に伴うもので、年間配食数を見込んで補正するものです。その下の太枠にあります還付金100万円につきましては、所得更正等による過年度保険料の過誤納に対する償還金の増加に対応するためのものです。

戻っていただきまして、398ページをごらんください。歳入をご説明いたします。繰入金の一般会計繰入金140万8,000円及び基金繰入金646万2,000円の増額につきましては、地域支援事業費及び総務費等の増額等に対応するものです。一番下の太枠、諸収入は、食の自立支援事業の利用者がふえているということに伴う利用者負担金の

増額です。説明は以上です。

○委員長（西田 真） 説明は終わりました。
質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（西田 真） 質疑を打ち切ります。
討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（西田 真） 討論を打ち切ります。
お諮りいたします。本案は、原案のとおり可決すべきものと決定してご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（西田 真） ご異議なしと認めます。よって、第157号議案は、原案のとおり可決すべきものと決定いたしました。

次に、第158号議案、令和元年度豊岡市診療所事業特別会計補正予算（第2号）を議題といたします。

当局の説明を求めます。

健康増進課、浅田参事。

○健康増進課参事（浅田 英稔） 議案書の406ページをお願いいたします。第158号議案、令和元年度豊岡市診療所事業特別会計補正予算（第2号）についてご説明をいたします。

本案は、第1条で歳入歳出予算の補正の款項の区分ごとの金額は、第1表歳入歳出予算補正によることとしております。

407ページ、408ページをお願いいたします。款項ごとの金額にそれぞれ増減はありますけれども、合計では歳入歳出とも増減はなく、総額はそれぞれ2億8,607万6,000円としております。

補正予算の内容は、事項別明細書によりご説明をいたします。416ページをお願いいたします。まず、歳出ですが、豊岡休日急病診療所費の医薬費117万4,000円の増額につきましては、医薬品の購入、また、医療用備品の更新を行うものとなっております。森本診療所費の負債利子、また、但東歯科診療所費の人件費及び一般管理費につきましては、失効見込みにより減額を行うものです。

1枚めくっていただいて、418ページ、但東歯

科診療所費の医業費につきましては、医薬材料費と歯科技工業務委託料の追加が必要となったための増額を行うものとなっております。

戻っていただきまして、414ページをお願いいたします。歳入の内訳につきましては、豊岡休日急病診療所、森本診療所及び但東歯科診療所の収入は、それぞれ失効見込みによりまして、一般会計繰入金の補正を行うものでございます。説明は以上です。

○委員長（西田 真） 説明は終わりました。

質疑はありませんか。

福田委員。

○委員（福田 嗣久） 但東歯科診療所の減額補正されてますけれども、利用の状況はいかがですか。

○委員長（西田 真） 浅田参事。

○健康増進課参事（浅田 英稔） 今現在、週1回木曜日、診療を行っております。大体患者の数ですけれども、20名前後お見えになっております。以上です。

○委員長（西田 真） 福田委員。

○委員（福田 嗣久） その20名で木曜日ということで、大体これ、うまく回ってるような状況ですか。

○委員長（西田 真） 浅田参事。

○健康増進課参事（浅田 英稔） 診療所のほうにお聞きしますと、あの規模、スタッフの中では大体20名、多くても25名以内でないちょっと内容が厳しいというふうな状況の中で、日程等をずらしながら、週1回の診療で対応をさせていただいてるというふうな状況です。

○委員（福田 嗣久） はい、わかりました。

○委員長（西田 真） よろしいか。

○委員（福田 嗣久） はい、よろしいです。

○委員長（西田 真） ほかにありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（西田 真） よろしいか。

質疑を打ち切ります。

討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（西田 真） 討論を打ち切ります。

お諮りいたします。本案は、原案のとおり可決す

べきものと決定してご異議はありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（西田 真） ご異議なしと認めます。よって、第158号議案は、原案のとおり可決すべきものと決定いたしました。

次に、第166号議案、令和元年度豊岡市国民健康保険事業特別会計（事業勘定）補正予算（第4号）を議題といたします。

当局の説明を求めます。

市民課、定元課長。

○市民課長（定元 秀之） 追加議案書の69ページをごらんください。第166号議案、令和元年度豊岡市国民健康保険事業特別会計（事業勘定）補正予算（第4号）についてご説明いたします。

本案は、第1条で歳入歳出予算の総額に、歳入歳出それぞれ47万9,000円を追加し、予算の総額を87億1,488万5,000円とするものです。

まず、歳出の内容につきまして説明いたします。78、79ページをごらんください。上の枠の1款総務費、1目一般管理費42万3,000円の増額、並びに下の枠の8款保健事業費、1目特定健康診査等事業費5万6,000円の増額は、給与改定に伴う人件費です。歳出につきましては以上です。

次に、歳入の内容を説明いたします。1ページ戻っていただきまして、76、77ページをごらんください。まず、1款国民健康保険税、1目一般被保険者国民健康保険税の5万6,000円の増額は、人件費の増額によるものです。その下の6款繰入金、1目一般会計繰入金42万3,000円の増額につきましては、人件費の増額に伴う一般会計からの繰入金です。以上でございます。よろしくご審議賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

○委員長（西田 真） 説明は終わりました。

質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（西田 真） 質疑を打ち切ります。

討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（西田 真） 討論を打ち切ります。

お諮りいたします。本案は、原案のとおり可決すべきものと決定してご異議はありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（西田 真） ご異議なしと認めます。よって、第166号議案は、原案のとおり可決すべきものと決定いたしました。

次に、第167号議案、令和元年度豊岡市国民健康保険事業特別会計（直診勘定）補正予算（第2号）を議題といたします。

当局の説明を求めます。

健康増進課、浅田参事。

○健康増進課参事（浅田 英稔） それでは、追加議案書の82ページをお願いいたします。第167号議案、令和元年度豊岡市国民健康保険事業特別会計（直診勘定）補正予算（第2号）についてご説明をいたします。

本案は、第1条で歳入歳出予算の総額に、歳入歳出それぞれ3万6,000円を追加し、予算の総額をそれぞれ9,081万9,000円とするものでございます。この補正予算につきましても、人事院勧告に準じて勤勉手当の改定に伴う補正で、歳入は一般会計繰入金で措置するものでございます。説明は以上です。

○委員長（西田 真） 説明は終わりました。

質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（西田 真） 質疑を打ち切ります。

討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（西田 真） 討論を打ち切ります。

お諮りいたします。本案は、原案のとおり可決すべきものと決定してご異議はありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（西田 真） ご異議なしと認めます。よって、第167号議案は、原案のとおり可決すべきものと決定いたしました。

次に、第168号議案、令和元年度豊岡市後期高齢者医療事業特別会計補正予算（第3号）を議題と

いたします。

当局の説明を求めます。

市民課、定元課長。

○市民課長（定元 秀之） 追加議案書の95ページをごらんください。第168号議案、令和元年度豊岡市後期高齢者医療事業特別会計補正予算（第3号）についてご説明いたします。

本案は、第1条で、歳入歳出の予算の総額に、歳入歳出それぞれ8万5,000円を追加し、予算の総額を12億7,029万8,000円とするものです。

それでは、歳出の内容につきまして説明いたします。104、105ページをごらんください。1款総務費、1目一般管理費8万5,000円の増額は、給与改定に伴う人件費です。歳出につきましては、以上です。

続きまして、歳入です。1ページ戻っていただきまして、102、103ページをごらんください。4款繰入金、3目その他一般会計繰入金の8万5,000円の増額は、職員給与費に係る一般会計からの繰入金です。以上でございます。よろしくご審議賜りますよう、よろしくお願いいたします。

○委員長（西田 真） 説明は終わりました。

質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（西田 真） 質疑を打ち切ります。

討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（西田 真） 討論を打ち切ります。

お諮りいたします。本案は、原案のとおり可決すべきものと決定してご異議はありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（西田 真） ご異議なしと認めます。よって、第168号議案は、原案のとおり可決すべきものと決定いたしました。

次に、第169号議案、令和元年度豊岡市介護保険事業特別会計補正予算（第4号）を議題といたします。

当局の説明を求めます。

高年介護課、恵後原課長。

○高年介護課長（恵後原孝一） それでは、追加議案書の108ページをごらんください。第169号議案、令和元年度豊岡市介護保険事業特別会計補正予算（第4号）についてご説明いたします。

本案は、第1条で歳入歳出予算の総額に、歳入歳出それぞれ50万4,000円を追加し、歳入歳出予算の総額をそれぞれ100億1,509万4,000円とするものです。今回の補正予算につきましては、人事院勧告に準じて、職員の給料月額及び勤勉手当の支給割合等の改定に伴う補正で、歳入は一般会計繰入金で措置するものです。説明は以上です。

○委員長（西田 真） 説明は終わりました。

質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（西田 真） 質疑を打ち切ります。

討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（西田 真） 討論を打ち切ります。

お諮りいたします。本案は、原案のとおり可決すべきものと決定してご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（西田 真） ご異議なしと認めます。よって、第169号議案は、原案のとおり可決すべきものと決定いたしました。

次に、第170号議案、令和元年度豊岡市診療所事業特別会計補正予算（第3号）を議題といたします。

当局の説明を求めます。

健康増進課、浅田参事。

○健康増進課参事（浅田 英稔） それでは、追加議案書の123ページをお願いいたします。第170号議案、令和元年度豊岡市診療所事業特別会計補正予算（第3号）についてご説明をいたします。

本案は第1条で、歳入歳出予算の総額に、歳入歳出それぞれ16万5,000円を追加し、予算の総額をそれぞれ2億8,624万1,000円とするものでございます。この補正につきましても、人事院勧告に準じて勤勉手当の改定に伴う補正で、歳入

については一般会計繰入金で措置をするものでございます。説明は以上です。

○委員長（西田 真） 説明は終わりました。

質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（西田 真） 質疑を打ち切ります。

討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（西田 真） 討論を打ち切ります。

お諮りいたします。本案は、原案のとおり可決すべきものと決定してご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（西田 真） ご異議なしと認めます。よって、第170号議案は、原案のとおり可決すべきものと決定いたしました。

ここで委員会を暫時休憩いたします。

午前11時34分 委員会休憩

午前11時34分 分科会開会

○分科会長（西田 真） ただいまより文教民生分科会を開会いたします。

それでは、第154号議案、令和元年度豊岡市一般会計補正予算（第4号）を議題といたします。

当局の説明は、組織順の課単位で一気に説明をお願いいたします。

なお、説明は歳出、続いて所管に係る歳入、債務負担行為の順でお願いいたします。

説明に当たっては資料のページ番号をお知らせください。

なお、質疑は全部署の説明が終わった後に一括して行います。

それでは、地域コミュニティ振興部から順に説明をお願いいたします。

どうぞ。

○生涯学習課長（大岸 和義） 議案書は297ページをごらんください。第154号議案、令和元年度豊岡市一般会計補正予算（第4号）について説明をいたします。資料は301ページをごらんください。生涯学習課が担当します補正予算につきましては、

今回は債務負担行為のみでございます。この表に従いまして説明をさせていただきます。

まず、この表のうち、上から10段目、子どもたちが豊岡で世界と出会う音楽祭開催事業について説明いたします。第7回、2020年度の開催に向けまして、委託業者との協議、それから開催案内を年度内に着手する必要がありますために、令和2年度、2020年度における債務負担限度額709万2,000円を設定するものでございます。

それから、続いて下から8行目、子どもの野生復帰事業でございます。こちらの事業は平成30年度から受託業者を公募しておりまして、令和2年度、2020年度当初から体験プログラムを展開するためには、受託業者の募集から決定、参加者の募集などを年度内に行う必要があります、それに伴います債務負担限度額919万8,000円を設定するものでございます。

それから、下から5行目でございます。エベレスト登頂50周年記念フォーラム共催事業について説明いたします。令和2年、2020年は、故植村直己氏が日本人として初めてエベレストに登頂してから50年になります。これを記念し、日本山岳会と共催で、日高農村環境改善センターをメイン会場に、来年5月9日、フォーラムを開催することになりました。ついては、地元で使います費用につきまして、地元で行います準備を年度内に始める必要がございますので、債務負担限度額30万円を設定するものでございます。説明は以上です。

○分科会長（西田 真） どうぞ。

○文化振興課長（米田 紀子） 同じく文化振興課は債務負担行為の補正のみですので、同じ301ページで説明をさせていただきます。

下から9行目でございます。文化芸術創造交流事業39万9,000円です。来年度の豊岡アートシーズン2020につきまして、今年度と同様6月スタートとする予定のため、パンフレットなどの経費について今年度から着手する必要があるため、必要な経費を計上しております。説明は以上です。

○分科会長（西田 真） どうぞ。

○文化振興課参事（小川 一昭） 私からは、市民会館等自主事業の債務負担行為に関して説明させていただきます。301ページ、下から6行目をご覧ください。市民会館等自主事業につきましては、市民会館の旧事業の予算として、令和2年度の債務負担行為で2,282万2,000円を計上いたしております。来年度もプロの演奏家等によるお出かけ訪問コンサートや、音楽レクチャーなどを予定しております。来年度早々には事業趣旨にかかれるよう、今年度から着手しなければ間に合わないような契約、また、プログラム等のために計上するものです。説明は以上です。

○分科会長（西田 真） どうぞ。

○新文化会館整備推進室長（櫻田 務） 同じく債務負担行為の補正、下から7段目でございます。新文化会館整備事業9,751万7,000円でございます。内容につきましては、来年度実施する基本設計業務8,496万6,000円と技術支援業務費1,255万1,000円でございます。

内容についてご説明させていただきます。

基本設計業務につきましては、新文化会館のようなホールの設計というのは建築基準法や消防法、非常に難しい建物でございます。また、照明、音響などについても、技術的、専門的な知識が必要となりますので、入札方法を通常の価格競争ではなくて、設計者の能力を評価する公募型プロポーザルを予定しております。

しかしながら、その手続には約4カ月要します。基本設計業務の標準工期っていうのは、大体11カ月でございますので、当初予算では繰り越しせざるを得ない状況となりますので、債務負担行為によって早期に入札日を進めさせていただくものでございます。

続いて、技術支援業務ですけども、先ほどご説明いたしましたとおり、技術的、専門的に相当な知識と経験を要しますが、本市はホールを整備した経験が余りございません。今後、設計を進めていく上で、技術的、専門的な事項について審査、決定する際に、設計者の視点や考え方に偏った計画にならないよ

うに、知識、経験を有する中立的な立場の専門家にアドバイスを受けるために、技術支援業務っていうものを委託する考えであります。

また、本業務において、先ほどご説明いたしました基本設計の公募型プロポーザルに必要な仕様書とか実施要領の作成支援を受けることを想定しておりますので、基本設計業務と同じように、債務負担行為により早期入札準備を進めるものでございます。

また、財源につきましては、基本設計業務に含まれる現況測量業務と土質調査業務の費用1,891万5,000円について、公共施設等適正管理推進事業費を活用する考えであります。以上でございます。

○分科会長（西田 真） どうぞ。

○スポーツ振興課長（池内 章彦） 344ページをお願いします。

議案書の344ページの一番上ですけども、このとりスタジアム管理費ですが、夜間照明設備のLED化等改修工事の実施設計の入札減を減額するとともに、敷地内の樹木の枝が市道文教府戸牧団地線を覆っているため、樹木の枝伐採のための業務委託料を計上しております。

続きまして、301ページ、債務負担行為のページをお願いします。（「何ページ」と呼ぶ者あり）301ページ。

債務負担行為です。一番下から4枠目です。オリンピック・パラリンピック推進事業費ですけども、ボート競技におけるドイツ代表チーム、スイス代表チームの事前合宿の受け入れ、聖火リレーの豊岡市内での実施に向けて設立をしました、とよおか2020スポーツ実行委員会及び東京2020オリンピック聖火リレー豊岡市実行委員会に対する負担金として、1,729万4,000円を限度額とする債務負担をお願いします。

内訳と内容ですけども、聖火リレーの実施につきましては、出発式のセレモニー、それから市役所市民広場での到着式のセレモニー、約2.5キロメートルにわたるリレーの運営、リレーランナー及び組

織委員会関係者が集合し、打ち合わせや報道取材を受ける場所の運営、プロの警備員による警備、また、広報等の経費として988万5,000円。事前合宿の受け入れに係る選手の輸送、通訳、警備、歓迎セレモニー、市民との交流会等の経費として740万9,000円を予定をしております。

その下の城崎ボートセンター管理事業費につきましては、事前合宿における練習環境を整備するために、トレーニング機器のローイングエルゴメーター、ボートコース2,000メートルを設置するためのコースブイ、コーチが乗車するカタマランボートの購入を行って確実な練習環境を整備するとともに、オリンピック後にもボート競技普及に資する備品として、451万7,000円を限度額とする債務負担をお願いします。

説明は以上です。

○分科会長（西田 真） どうぞ。

○市民課長（定元 秀之） 市民課は歳出のみです。

322ページをごらんください。一番下の枠の説明欄、下から4行目の国民健康保険事業特別会計（事業勘定）繰出金の685万2,000円の増額は、人件費、財政安定化支援事業交付税算入額の増額及び本年度実施したファイアウォール機器更新の不用額による減額です。

次に、324ページをごらんください。下の枠の説明欄、上から5行目の後期高齢者医療事業費629万2,000円の増額は、平成30年度兵庫県後期高齢者医療広域連合に係る療養給付費負担金の確定による増額並びに令和元年度共通経費負担金の確定による減額によるものです。

その下の後期高齢者医療事業特別会計繰出金の188万4,000円の減額は、本年度実施したファイアウォール機器の更新の不用額による減額並びに人件費、平成30年度国庫補助金精算による増額です。

市民課からは以上です。

○分科会長（西田 真） どうぞ。

○生活環境課長（今井 謙二） 330ページをお願いします。真ん中の枠の下の部分です。じんかい処

理事業費のうち、北但行政事務組合の負担金を2,224万9,000円減額するものです。

これは、北但行政事務組合の予算において、前年度決算の繰越金確定等により、負担金が減額されたことによるものです。

次に、債務負担行為の分ですけど、301ページをお願いします。真ん中あたりになりますが、指定ごみ袋等作製業務についてです。

4月からの納品を受けるため、作製に日数が必要となりますので、債務負担を限度額4,090万円で設定するものです。

市民生活部は以上です。

○分科会長（西田 真） どうぞ。

○社会福祉課長（原田 政彦） それでは、322ページ、一番下をごらんください。知的障害者福祉事業費52万3,000円について説明いたします。

324ページの一番上をごらんください。まず、手数料17万3,000円につきましては、老朽化が進みます指定管理施設である日高共同作業所の建物を指定管理期間が終了に伴い除却しまして、除却後は、日高共同作業所が現在地にて建てかえを行い、事業を継続実施されます。

現在地は市の所有の用地でありまして、貸し付けではなくて、譲渡を希望されております。そのため、土地鑑定が必要となることから、鑑定手数料として増額補正をするものです。

また、登記業務35万円につきましては、今回必要とされます部分の約380平米の土地の分筆登記費用として増額補正をするものでございます。

その3行下の障害者（児）の自立支援給付事業費でございます。

まず、手数料7万4,000円につきましては、国保連によります障害児の給付費審査請求に係る事務処理手数料でありまして、実績見込み額を踏まえて増額補正をするものでございます。

また、その下のグループホーム新規開設サポート事業費補助金18万6,000円につきましては、当初、1カ所分のみでの計上でしたが、2カ所開設となったため、新規開設に係る備品購入費分

として増額補正をするものでございます。

また、その下の障害福祉サービス費3,157万5,000円につきましては、障害児通所給付費の実績見込み額を踏まえて増額補正をするものでございます。

それから、またその下の地域生活支援事業費の要約筆者派遣事業委託料と障害者自動車改造費補助金につきましては、これも実績見込み額を踏まえて増額補正をするものでございます。

その下の自立相談支援事業費の業務委託料58万円につきましては、生活困窮者相談業務を社協に委託しておりますが、社協職員の通勤手当と時間外手当などの実績見込み額を踏まえて増額するものでございます。

続きまして、326ページの下の方の真ん中あたりでございます。児童扶養手当給付事業費82万9,000円についてでございます。当初予算額より給付見込みが上回り、不足することが予想されることから、増額補正をするものでございます。

続きまして、歳入のほうをご説明いたします。

308ページ、一番上でございます。障害者（児）自立支援給付費負担金1,578万7,000円の増額についてでございます。

先ほど歳出で説明いたしました、障害福祉サービス費3,157万5,000円の2分の1の国庫負担分でございます。

その下の生活困窮者自立相談支援事業等負担金187万5,000円の増額につきましては、今回、適正な基準額で算定し直し、是正するものでございます。

その下の児童扶養手当給付費負担金275万6,000円の増額につきましては、先ほど歳出で説明いたしました児童扶養手当給付費の国庫負担分でございます。

その下の生活保護費負担金942万8,000円の減額につきましては、実績見込み額を踏まえて減額するものでございます。

それから、真ん中の表の2行目、障害者地域生活支援事業費補助金6万円の増額につきましては、先

ほど歳出で説明いたしました地域生活事業費のうちの要約筆記者派遣事業委託料17万1,000円に係る国庫補助分でございます。

その下の障害者総合支援事業費補助金235万円の増額につきましては、福祉総合システムの消費税引き上げに伴う改修費用と就学前障害児の発達支援無償化に伴う改修費用に係る国庫補助分でございます。

今回、国庫補助金の内示がありましたので、それに伴う補正でございます。

それから、3行下の母子家庭等対策総合支援事業費補助金56万5,000円につきましては、児童扶養手当システム番号制度対応改修費用に係りませぬ国庫補助分でございます。

これも国庫補助金の内示による補正でございます。

一番下の表の障害者（児）自立支援給付費負担金789万4,000円の増額につきましては、先ほど歳出で説明いたしました障害福祉サービス費の県負担分、県支出金でございます。

その下の自立支援医療費負担金（過年度分）5万5,000円の増額につきましては、平成30年度障害者医療費県負担金の精算による追加交付金でございます。

続きまして、310ページの一番上でございます。障害者地域生活支援事業費補助金3万円の増額につきましては、先ほど歳出で説明いたしました地域生活支援事業費のうち、要約筆記者派遣事業委託料に係る県補助分でございます。

その下のグループホーム新規開設サポート事業補助金9万3,000円の増額につきましては、先ほど歳出で説明いたしました18万6,000円の2分の1の県補助分でございます。

社会福祉課は以上でございます。

○分科会長（西田 真） どうぞ。

○高年介護課参事（武田 満之） 私のほうからは、高年介護課分の関係分について説明させていただきます。

まず、歳出です。

324ページをごらんください。説明欄の4行目、但東健康増進センターの管理費です。

昨年度、屋内運動広場の水銀灯の照明をLED照明に取りかえたことによりまして電気代のほうが削減できましたので、それに伴いまして、シルク温泉やまびこへの指定管理料のほうを9万7,000円減額補正するものでございます。

同じく、324ページの下の方、説明欄の3行目、介護保険事業特別会計繰出金140万8,000円なんですけれども、こちらにつきましては、介護保険特別会計に係る12月補正の増額分に伴う法定負担割合に基づく一般会計からの繰出金でございます。

そこから8行下、緊急通報システム整備事業費47万6,000円の減額補正なんですけれども、こちらにつきましては、緊急通報システム本体に使用します電池代、あと協力員のボランティア保険、火災警報器の購入価格などが、定価といたしますか、安い価格で購入できましたので、執行見込みに伴う減額とさせていただきます。

その下、長寿祝福事業費ですけれども、こちらにつきましても、事業が終了したことによりまして、実績によりまして4万8,000円の減額をしております。

次のページ、326ページをごらんください。説明欄のほうの上の段です。社会福祉法人利用者負担減額事業1万1,000円の増額補正です。

この事業につきましては、低所得者で生活困難な利用者に対しまして介護サービスを提供する社会福祉法人が、その社会的役割として、利用者の負担軽減をすることでサービスの利用促進を図るものでございますが、法人が軽減する際に負担した費用の一部を公費でも負担しております。

こちらにつきましては、社会福祉法人が算定する減免額に誤りがございましたので、結果として、過大に補助金を受け取っておりますことから、国、県の公費助成分を返還するものでございます。

その下、住宅改造費助成事業費186万円の減額補正ですけれども、今年度におきますこれまでの申

請実績に基づきまして減額をさせていただいております。

その下、民間老人福祉施設助成事業費195万1,000円の増額補正ですけれども、こちら、歳入ともなります兵庫県のほうの県の補助金の基準単価が増額いたしまして、それに伴い、補助金額も増額させていただいております。

具体的な施設につきましては、現在、但東町の小谷地域のほうで建設のほうをされております小規模多機能居宅介護事業所のほうの整備費と、あと開設準備のほうの補助ということで、そちらのほうの補助に充てさせていただいております。

歳入です。

308ページをごらんください。308ページの真ん中の枠の説明欄の上から4行目、社会資本整備総合交付金、人生いきいき住宅助成事業費75万9,000円の減額補正です。歳出でも説明しましたように、申請件数が減少しております、それに基づきまして、国からの補助分も減額させていただいております。

また、310ページの上の枠の説明欄の3行目、そちら、人生いきいき助成補助金75万5,000円。こちらにつきましても県の補助なんですけれども、こちらも減額させていただいております。

次の行、地域介護拠点整備事業費195万1,000円の増額につきましても、歳出で説明しました民間老人福祉施設助成事業に伴う県補助金の増額でございます、事業費の全額を県補助金で対応しております。

それと、312ページの上から3段目の枠内の一番下の行、補助金返還金で3,147万2,000円のうちの1万4,000円分なんですけれども、歳出でも説明しましたように、社会福祉法人の利用者負担減額事業におきまして、社会福祉法人が受け入れしました公費分の分を返納金として事業者から徴収するというので計上しております。

説明のほうは以上です。

○分科会長（西田 真） どうぞ。

○健康増進課長（宮本 和幸） それでは、328ペ

ージをごらんください。

下から4つ目の枠になります。健康診査事業費の国庫補助金返納金39万9,000円ですが、後期高齢者の健診事業の精算に伴う返納金になります。

その下の枠、予防接種事業費の医薬材料費729万8,000円の減額ですが、風疹の追加対策分のワクチン代について減額するものです。

その2つ下の枠、公立豊岡病院組合負担金ですが、負担金の確定によりまして減額するものです。

続きまして、歳入ですが、308ページをお願いします。

真ん中の枠、説明欄の上から5番目の枠になります。緊急風しん抗体検査等事業費補助金ですが、風疹の追加対策分についての国庫補助金になります。

続きまして、301ページをごらんください。債務負担行為の補正になります。

上から13番目ぐらい、真ん中あたりになりますけれども、すこやか市民健診の業務について、委託業者の手配などが必要なために計上しています。

その1つ下、風しん抗体検査・予防接種クーポン券印刷等業務ですが、4月の下旬にはそれぞれ対象者に案内を発送したいと考えていますことから、債務負担行為に上げています。

健康福祉部の説明は……。

○分科会長（西田 真） どうぞ。

○社会福祉課長（原田 政彦） ちょっと説明漏れがありましたので、追加で説明をさせていただきます。

歳入で、312ページ、上から3つ目の表、真ん中あたりです。生活保護法収入1,308万7,000円についてご説明をさせていただきます。

これにつきましては、生活保護法の第36条、76条、78条に係ります生活保護費の返還に係る収入として予定しているものでございます。

具体的には、年金の遡及収入に伴う保護費の返還でありますとか、不正収入に伴う保護費の返還分などでございます。以上でございます。

○分科会長（西田 真） どうぞ。

○教育総務課長（永井 義久） 316ページをごらんください。中段あたりになります。

基金積立金でございますが、財政調整基金積立金2,000万円と上げております。後ほど歳入のほうで説明させていただきますが、遺言による寄附をいただいております、次年度以降の子供のための教育に充てるというものでございます。

次に、340ページをごらんください。一番上の枠の人件費になります。

適正規模・適正配置の審議会の委員報酬、これは2回分を予定しております。

その枠の下のほうでございますが、その審議会の事務的な経費でございます。費用弁償、食糧費でございます。

次の枠の真ん中あたりですけれども、小学校の管理費になります。

学校施設管理費について、修繕料につきましては、今後見込まれます、暖房のほうの修繕を見込んで上げております。整備工事費につきましては、工事費の確定による減額としております。

続きまして、342ページをごらんください。文化財保護事業費です。真ん中あたりの枠になりますけれども、こちらにつきましては、江野の小江神社にあります天然記念物の大ケヤキが倒木の可能性があるために、一部を伐採して、腐食修理を行うという補助金でございます。事業費30万円余りのうち、県、市、地元で3分の1を負担するというものでございます。

続いて、344ページ、上から2つ目の枠をごらんください。給食センター管理費の備品の減額になります。こちらのほうにつきましては、大型の食器洗浄機等の購入、確定したことによる減額になります。

次に、歳入になります。

310ページをお願いします。一番下になりますけれども、教育総務費の寄附金です。こちらにつきましては、豊岡市出身の方からの遺言によりまして、複数の団体の一つとして、豊岡市の子供たちのためにということで2,000万円寄附いただいております。

最後になります。債務負担行為です。

301ページをごらんください。こちらは、上から7行目、小学校施設管理事業ということで、172万8,000円を上げております。

6月にプールが始まるわけですが、小学校3校、福住、寺坂、合小のプールの修繕を間に合わせるために債務負担行為を行うということでございます。以上です。

○分科会長（西田 真） どうぞ。

○こども育成課長（木下 直樹） それでは、歳出のほうから説明させていただきます。

326ページ、中ほどから少し下をごらんいただきたいと思います。

児童福祉総務費でございます。

業務委託料につきましては、子ども・子育て支援事業計画策定業務に係ります入札減によるものでございます。

その下の国庫負担金等精算返納金につきましては、子ども・子育て支援交付金返納金が769万円、それから子ども・子育て支援体制整備総合推進事業費国庫補助金返納金のほうが17万6,000円、それから児童虐待対策等総合支援事業費国庫補助金返納金のほうが3万5,000円でございます。

次に、その下の枠、放課後児童健全育成事業をごらんいただきたいと思います。

こちらのほうにつきましては、静修放課後児童クラブの玄関のひさし、それから三江放課後児童クラブの玄関の軒どいと、それから外壁の修繕のほか、あと、このたび港西幼稚園で開設しておりました、港西、港東放課後児童クラブのほうを、港西小学校内へ移転を行いました。その際に必要となりました網戸でありますとか、カーテンの設置などをお願いしております。

次に、歳入でございます。308ページ、中ほどをごらんいただきたいと思います。

3節の児童福祉費補助金でございます。その中のファミリー・サポート・センター事業費補助金、それから、次のページの310ページ、上から5つ目でございます、ファミリー・サポート・センター事業費補助金、こちらのほうは県でございますけれども、

それぞれ、こちらにつきましてはファミリー・サポート・センター事業のうちの預かり手の増加のために取り組んだ加算でございまして、ファミリー・サポート・センターの預かりを行う会員のほうが前年度は58人でしたけども、今年度9月時点で既に74人と、前年度と比べて1割以上増加したことに伴いまして、100万円の加算がされるもので、負担割合としては、国のほうがその3分の1、それから県のほうが3分の1、補助金としていただくものでございます。

説明のほうは以上でございます。教育委員会が最後、終わりました。

○分科会長（西田 真） 終わりました。

ここで、分科会を暫時休憩いたします。

再開は午後1時。

午後0時07分 分科会休憩

午後1時00分 委員会再開

○委員長（西田 真） 休憩前に引き続き、ただいまより委員会を再開いたします。

次に、協議事項（2）番、請願・陳情の審査に入ります。

陳情第5号、災害時要援護者登録者数の回復に関する陳情書を議題といたします。

事務局より、請願・陳情文書表の朗読をお願いいたします。

○事務局主幹（木山 敦子） 受理番号、陳情第5号。件名、災害時要援護者登録者数の回復に関する陳情書。受理年月日、令和元年12月9日。

要旨。豊岡市災害時要援護者名簿に関する条例の中の情報伝達等要援護者の登録者数は、おおむね次の1から3の推移となっている。

1、平成30年2月時点、約4,000人近く、平成31年3月12日、文教民生委員会での発言。
2、平成30年12月時点、約1,500人、平成31年3月12日、文教民生委員会での発言。
3、令和元年10月時点、約1,500人、令和元年10月16日、窓口にて担当者発言。

1から2については、市が条例の施行に伴う名簿

の登録案内文書、豊社第4574号、平成30年2月21日において「同居する家族（健常者）がいる場合は対象とならない」と誤った内容を登録者全員に送付した。

このため、登録者数が約4,000人近くから約1,500人に大幅に減少したと考えられる。

2から3については、市は誤りを認め、平成31年度4月号及び8月号の広報とよおかに変更内容を掲載するとともに、各区長、各民生委員に変更内容を説明したが、登録者数は約1,500人の横ばいである。

これらの対策では、全く登録者数の回復が図れていないのが現状である。

前回の陳情、平成31年3月議会、陳情第1号は、市の誤った運用を正すものであり、本陳情は、誤った運用を行ったことによる登録者数の大幅減少を回復させるための陳情である。

よって、登録者数の回復（市のミスの回復）を図るために、平成30年2月時点の約4,000人近くの対象者の中で、現在、未登録者の方々へ文書の個別送付、または電話による登録回復を図ってほしい。

提出者、豊岡市日高町夏栗226、前野辰也。付託委員会、文教民生委員会。以上でございます。

○委員長（西田 真） ありがとうございます。

この陳情の件でありますけど、傍聴の申し出があり、それを許可しておりますので、皆さんご了承願います。

この件について、当局から意見、説明等はありませんか。

どうぞ。

○社会福祉課長（原田 政彦） 私のほうからは、災害時要援護者登録に関しての、まず経緯と、その後に、今回の陳情に対する市の考え方のほうを説明させていただきたいと思います。

まず、お手元にお配りしております資料のほうから、1ページのほうからご説明をさせていただきます。

2017年、平成29年の12月の28日に豊岡

市災害要援護者名簿に関する条例を公布、施行し、2018年、平成30年2月15日に豊岡市災害時要援護者名簿に関する運用方針、これは登録の手続等を記載した内規になりますが、こういったものを作成いたしました。

なお、この条例につきましては、従前に、豊岡市災害時要援護者登録制度実施要綱というものがございましたけれども、これを整備し直したものでございまして、要綱の基本的な考え方を踏襲したものでございます。

その運用方法では、後で見ますけれども、条例第4条の情報伝達等要援護者の範囲の規定に明文化されていない同居家族（健常者）がいる方は対象外として定義をしておりました。

その情報伝達等要援護者の定義と、その範囲について説明をさせていただきます。8ページをごらんください。

8ページ、災害時要援護者名簿に関する条例でございます。第2条の（3）情報伝達等要援護者が規定されております。これは、平常時における地域での見守りと災害時等における情報提供及び安否確認を要する者でございます。

（2）のほうは、避難行動要援護者と言いまして、こちらについては、平常時における地域の見守り、災害時における情報提供、安否確認、ここまでは情報伝達等要援護者と一緒でございますけれども、違う点が、避難誘導及び避難支援を要する者ということになっております。

9ページの真ん中あたり、第4条でございます。こちらのほうで情報伝達等要援護者の範囲を規定しております。

この範囲につきましては、災害時等における情報提供等の支援を希望する者であって、次の各号のいずれかに該当するものとしております。

まず、（1）のほうで、要介護認定者のうち、要介護状態区分が要介護3から要介護5までのいずれかである者、（2）として、身体障害者のうち、障害の程度が1級または2級である者、（3）として、知的障害者のうち、障害の程度がAの判定であ

る者、精神障害者のうち、障害の程度が1級である者、（5）として、65歳以上の者のみから成る世帯に属する者ということで、第4条には、同居家族（健常者）がいる場合は対象外とは定義されておられませんでしたが、運用方針の中で対象外と定義したものでございます。

また1ページのほうに戻っていただきまして、上から3つ目でございます。

その後、2018年、平成30年2月下旬から3月にかけて、平成18年に作成しました要綱時に情報伝達等要援護者に登録されておりました約4,000人に対して、災害時要援護者名簿の登録への案内をしたところ、2018年、平成30年の3月24日現在で1,531人となったものでございます。

これを案内をし直したといえますのは、要綱から条例に変更になった時点で、改めて登録のし直しが必要となったために、全員に案内をしたところでございます。

2018年、平成30年12月17日に災害時要援護者名簿に関する条例で定める情報伝達等要援護者の範囲について、同居する家族（健常者）がいる方は対象とならない運用になっているため、条例どおりとしてほしいという災害時要援護者登録に関する陳情書が議会に提出されました。

これを受けまして、内部で検討しました結果、不適切な運用であることから、陳情者本人には、2019年、平成31年1月下旬に、対象者の取り扱いについては是正すると、条例どおりとするという旨を連絡いたしました。

2019年、平成31年3月11日の文教民生委員会に審査が付託されました。その委員会での市の発言については、次のとおりでございます。

1つ目が、同居家族がいるため登録を断念されたケースも考えられることから、市民への広報として、3月25日発行の4月号の市広報紙に災害時要援護者登録に係る情報提供とあわせて、今回の取り扱いの変更についても明記し周知を図ること。2つ目として、災害時要援護者名簿の提供先である区長、

民生委員に対しては、区長協議会、民生委員協議会の場において、制度の説明とあわせて、今回の取り扱いの変更について順次説明することということで発言をさせていただいております。

文教民生委員会では、この陳情が全会一致により採択されました。

なお、次のとおり、意見及び要望が付されたところでございます。

ちょっと読み上げますと、情報伝達等要援護者の範囲拡大により、これまで対象とならなかった方への周知徹底を図るとともに、自主防災組織を初め、避難支援等に携わる関係者へ十分な説明を行われたいという内容でございます。

次に、今回のこの陳情に対する市の考え方について説明をさせていただきます。特に資料はございません。

昨年度の陳情を受けまして、市民への周知として、2019年、平成31年3月25日に発行の4月号の市の広報紙と7月25日発行の8月号の市の広報紙並びに市のホームページに変更点を明示して周知を図りました。

そのときの資料につきましては、お手元にお配りしてあります資料の3ページ。この3ページが4月号の市の広報紙、上段です、市の広報紙の文面です。4ページが8月号の市の広報紙の文面、一番下のほうです。5ページが市のホームページでございます。

さらに、災害時要援護者名簿の提供先であります区長、民生委員に対して、2019年、平成31年3月の14日から5月の9日の間で全ての区長協議会、民生委員協議会の場におきまして、制度の周知とあわせて、今回の取り扱いの変更点について丁寧に説明し、登録を希望される方への声かけの協力を依頼しました。

なお、そのときの説明資料につきましては、6ページから7ページのとおりでございます。またご清覧ください。

さて、今回の陳情にあります、まず、文書の個別送付の対応についてでございます。

対象者の多くは、精神保健福祉手帳の1級の方や

療育手帳A判定の方など、障害の程度が重たい方々であることということと、あと高齢者の方々であることから、送付された文書をよくお読みをいただいて十分に趣旨を理解していただくのは難しい面があるだろうなというふうに考えております。

また、次の個別電話の対応についてでございますが、余りにも件数が多いということもさることながら、文書の個別送付の場合と同様に、十分に趣旨を、電話でするので、理解していただくことが難しい面があるというふうに考えているところでございます。

そこで、市としましては、全ての区長、民生委員に対して、各区の避難行動要援護者、情報伝達等要援護者のうち、登録を希望される方への声かけの協力や登録勸奨の再依頼を行いまして、地域の中できめの細かい対応をしていただくことが最も効果的であるというふうに考えております。

また、あわせて、再度、市の広報紙への周知も図っていきたいというふうに考えているところでございます。

なお、このような方法であれば、当初登録者以外の新規の対象者についてもカバーすることが可能でありまして、より周知が図られるものと考えております。

このような、より効果的な方法により対応していきたいというふうに考えております。

説明は以上でございます。

○委員長（西田 真） 説明は終わりました。

質疑、意見等はありませんか。ありませんか。どなたからでも。

井上委員、どうぞ。

○委員（井上 正治） お尋ねします。

今、陳情者の方のほうの要旨を見ても、登録者数がやはり4,000人から1,500人に減少してるという現実があるようでございますけども、市としては、この辺のことをどのような形で捉えておられるのかご説明をいただけたらと思います。

○委員長（西田 真） どうぞ。

○社会福祉課長（原田 政彦） 確かに数字だけ見ま

すと、4,000から1,500人引いた2,500人の方々の減少というふうを受けとめられるわけでございますけれども、そもそも、先ほど言いましたように、丁寧に民生委員、区長にも連絡を差し上げて、再度、きめの細かい対応をお願いしたところでございますし、市の広報も2回打たせていただきました。

そんな中で、4月から新たに登録された方というのは全体で37人程度でございます。これも、本人が直接、窓口を持ってこられたのではなくて、区長、あるいは民生委員が勧奨された結果、窓口で区長、あるいは民生委員が持ってこられたということで、そういうことで一定の効果があつたであろうというふうに思っているところでございます。

そんなことで、今回につきましても、同じような、この3月、4月、5月に行いましたやり方と同じような方法で、再度、区長さん、民生委員さんに連絡をとらせていただいて、地区の中できめ細やかな対応をしていただくということと、もう一度、市広報紙のほうで周知を図ることによって、またつながってくるのではないかなというふうに思っているところでございます。以上です。

○委員長（西田 真） 井上委員。

○委員（井上 正治） 今、市の当局のほうからご説明をいただきました。これまで、31年の3月の陳情書第1号の採択後の市の対応についても、それぞれ市の広報が2回ほどされております。それから各区長、民生委員を通じての説明も行っているというふうなことの流れ、そして、今後もしろんな形の中で周知を図っていきたいというふうなことでございますので、このようなことの説明を受ける中では、やっぱり市民に再度しっかりと周知をしていただいて、特に自主防災であったり、それからまた民生委員、地区区長さん、それぞれにかかわる方が一番多いと思いますし、特に市の施策で見守り事業だとか、支え合い事業というのもされておりますので、そういうものを有効に活用されながら、しっかりとやはり把握するということの周知を図っていくことが大切だというふうに私は今お聞きした中で感

じております。以上です。

○委員長（西田 真） 答弁よろしいね。

○委員（井上 正治） はい、いいです。

○委員長（西田 真） 田中副委員長。

○委員（田中藤一郎） ちょっとお尋ねしたいんですけども、こういった情報提供の部分につきましては、区長、民生委員さんからの情報提供は、例えば半年に1回してあるとか、年に何回かしてると、部分もありますし、把握した時点で情報提供があるかとは思んですけど、そのあたりはいかがでしょうか。

○委員長（西田 真） どうぞ。

○社会福祉課長（原田 政彦） 情報提供、名簿の情報提供につきましては、年に2回、民生委員さん、それから区長、それから消防団のほうにそれぞれ提供しています。提供回数は年に2回で、8月と、今、2月に提供してるところでございます。以上です。

○委員（田中藤一郎） わかりました。

○委員長（西田 真） よろしいか。

○委員（田中藤一郎） はい。

○委員長（西田 真） ほかにありませんか。
上田委員。

○委員（上田 伴子） この4,000人から1,531人になった中で、4,000人の方たちの地域というか、そんなのはわかってるんですけども、その地域の民生委員さん、区長さんに、大体、以前の登録者名簿みたいなものは渡ってるというか、そういうことはあるのでしょうか。

○委員長（西田 真） どうぞ。

○社会福祉課長（原田 政彦） 以前の名簿といいますのは、4,000人分の名簿ということですよ。

○委員（上田 伴子） 要援護者の方。

○社会福祉課長（原田 政彦） 要援護者の4,000人分の、はい。

それは、先ほど言いました、年に2回、8月と2月に最新の情報をお渡ししております。その時点で、古い名簿については破棄してもらおう、シュレッダー等で破棄してもらおうということにしておりますので、多分、地区には名簿はないというふうに思っ

ております。以上です。

○委員長（西田 真） 上田委員。

○委員（上田 伴子） そこら辺のところ、民生委員さんかわられる中で、伝達がきちんとできるところと、そうでないところと、中にはあるのかなと思ったり、でも、地域の要援護者の方については、私たちのところでもそうですけども、日々、区長や、その見守りの中で把握してますので、地域的に、区長、民生委員が網羅していたら、漏れることはないのかなという思いもありますので、ぜひそこら辺、徹底してもらったと思います。

○委員長（西田 真） どうぞ。

○健康福祉部長（久保川伸幸） 今ご指摘をいただきましたように、区長さん方、民生委員さん方もかわられます。これは必ず定期的にその辺の周知、お願いをいたします。区長会も毎年、定期的に年何回かされておりますので、一番最初のときには、必ず、常にお願いをするようにいたしますし、民生委員さん方も、今回、任期がかわったところがございますので、早々にそういったお願いもしっかりとしていきたいと思っております。

今回、こういった中で、さらに区長さんと民生委員さん方には、もう漏れがないですかねというような趣旨で、改めてお願いをしようということ思っております。

○委員長（西田 真） よろしいですか。

○委員（上田 伴子） はい、よろしくお願ひします。

○委員長（西田 真） ほかにありませんか。

竹中委員。

○委員（竹中 理） 前回、私、委員長のときのこの陳情が前回だったんですけども、前は明らかに市のちょっと不手際があった上での結果だと思ひます。

先ほどお聞きする中で、要綱から条例に変わったということで、文書送付や個別電話をするよりも、区長さん、または民生委員さんなんかの、直接行っていただいて、しっかり確認してもらおうというのが効果的だと思いますし、先ほど井上委員のほうからありましたけれども、広報のほうも機会あるごとに

しっかりとやっていただくのが一番いいのかなと思うんですけど、1つちょっと質問で、区長さんに情報が行ってると思うんですけど、それを全区長さんからそういうバックというか、何人行って、何人行けてないとかっていうことは、そこまではされてないですよ、その報告、いわゆる要援護者の希望者。そこまではされてないですよ。

○委員長（西田 真） どうぞ。

○社会福祉課長（原田 政彦） その数字は捉えてないです。以上です。

○委員長（西田 真） 竹中委員。

○委員（竹中 理） いずれにしましても、一番、区長さんとか民生委員さんがしっかりと回っていただくのが効果的なのではないかなというふうに思ひます。以上です。

○委員長（西田 真） よろしいか。

ほかにありませんか。よろしいか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（西田 真） それでは、質疑を打ち切ります。

それでは、この後、討論に入りたいと思ひます。

討論に入る前に、当局職員の皆様には説明等でご協力いただき、ありがとうございました。討論に入ります前に、ここで退席していただいて結構です。お疲れさまでした。ありがとうございました。

〔当局退席〕

○委員長（西田 真） それでは、討論におきましては、各委員が発言された内容は、後ほど議報や委員長報告を作成する際に引用することになりますので、よろしくお願ひをいたします。

それでは、討論はありませんか。

竹中委員。

○委員（竹中 理） 本陳情書につきましては、不採択の立場で討論を行います。

平成31年3月の陳情書第1号の採択後の市の対応において、既に第2回の広報活動、各区長、民生委員を通じて説明を行っている。陳情者の思いは理解をしつつも、広報でのほか、12月に各区長、民生委員宛てに文書を送付されているとされてい

ます。また、さまざまな機会に市民への説明を予定しており、市民への周知は図れるものと考えます。

以上により、本陳情書は不採択としたいと思いません。以上です。

○委員長（西田 真） ほかにありませんか。ありませんか、よろしいか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（西田 真） それでは、討論を打ち切ります。

これより採決を行います。

本件は、採択すべきことに賛成の委員の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

○委員長（西田 真） 全会一致ということによろしいか。（「はい」と呼ぶ者あり）

それでは、全会一致ということで、陳情第5号は不採択とすべきことに決定いたしました。

暫時休憩いたします。再開は午後1時35分。

午後1時25分 委員会休憩

午後1時35分 分科会再開

○分科会長（西田 真） それでは、ただいまより文教民生分科会を再開いたします。

午前の部で説明は終わりました。一通りの説明を当局の皆さんにさせていただきました。

委員の皆さん、質疑はありませんか。

清水委員、どうぞ。

○委員（清水 寛） 済みません、補正予算の関係の債務負担行為、指定ごみ袋等作製業務についてちょっとお尋ねしたいんですけども、これが4月から納品を受けるために債務負担行為ということをお聞きしたんですけども、これは何ですかね、4月から、例えば何かごみ袋のサイズが変わるとか、何かそういうようなことがあって、4月からということなんですか、ちょっとその内容をもう少し詳しく教えていただけたらと思います。

○分科会長（西田 真） どうぞ。

○生活環境課長（今井 謙二） 指定ごみ袋については、サイズ等を変えるような予定はしていません。

ただ、値段の表示とかをすることによりまして、コスト意識をさらに持っていただけるような印刷の仕方とかいう部分を変える部分は出てこようかとは思いますが、サイズとかについて、形状とかについて変える予定はしていませんが、4月の最初から納品をしていただかないといけないという業務になりますので、その作製に一定の、約2カ月程度の期間は要しますので、1月には入札をして準備をしていただくということにしております。以上です。

○分科会長（西田 真） 清水委員。

○委員（清水 寛） そうしましたら、4月からごみ袋のデザインが少し変わりますよということでのまた周知とかをされるということですか。

○分科会長（西田 真） どうぞ。

○生活環境課長（今井 謙二） デザインを変えると、表示の中の一部が変わる程度ですので、特に見た目が変わるわけではありませんので、周知等は考えておりません。

○分科会長（西田 真） 清水委員。

○委員（清水 寛） 余りそのPRもしないし、ちょっとデザインが変わるっていう、逆に言えば、その理由で債務負担行為というのはやはり必要なんでしょうか。

○分科会長（西田 真） どうぞ。

○生活環境課長（今井 謙二） ごみ袋の納品を4月から来年、次の年の3月までをお願いするというのと、印刷、作製、それから保管と、それから指定販売店までの搬送までを一括して業務を委託しますので、4月初めからもう納品をしていただかなければならないという業務ですので、前もって準備が必要ということで債務負担をお願いしてるところです。

○分科会長（西田 真） 清水委員、よろしいか。

○委員（清水 寛） 結構です、はい。

○分科会長（西田 真） ほかにありませんか。

福田委員。

○委員（福田 嗣久） 1つだけ。342ページで文化財の保護費で説明を受けました、指定有形文化財

修理防災施設整備費、大ケヤキとおっしゃったようですけども、これはどんなふうにして修復するんですか。

○分科会長（西田 真） どうぞ。

○教育総務課参事（橋本 明宏） 文化財の、かなりの巨木、背の高い木でございまして、その幹の部分が少し空洞ができて、倒れる可能性が出てきているということで、その上部、上の部分を切り落として、空洞があっても耐えられる高さまで切断すると。

（発言する者あり）はい。

そして、腐食しないように保護するというものがございます。

○分科会長（西田 真） 福田委員。

○委員（福田 嗣久） この指定有形、そのケヤキうちゅうのは何本ぐらいありますの、全市の中で。神社でしょうけどね。

○教育総務課参事（橋本 明宏） 委員長、よろしいでしょうか。

○分科会長（西田 真） どうぞ。

○教育総務課参事（橋本 明宏） 少しお時間をいただきたいと思いますが、ケヤキで県指定文化財、天然記念物になっているものはこれ1本でございまして……（発言する者あり）はい。神社の脇に立っている巨木というようなイメージでございます。

そのほかの種類で記念物の指定を受けているものはございますので、また後ほど、必要でしたら資料を……（発言する者あり）はい、提供させていただきます。

○委員（福田 嗣久） 済んでからでよろしいです。

○教育総務課参事（橋本 明宏） はい、承知しました。

○分科会長（西田 真） よろしいか。

○委員（福田 嗣久） はい、よろしい。

○分科会長（西田 真） そしたら、ほかの指定有形文化財の、ケヤキ以外の種類と本数は各委員に、レターケースに入れといてください。それで結構ですので、よろしく申し上げます。

ほかにありませんか。

上田委員。

○委員（上田 伴子） 312ページ、生活保護法の収入の中で、年金収入などによる保護費の返還で1,308万7,000円の返還があるんですが、年金とか、ほかにはどのような返還内容があるのかお知らせください。

それから、324ページで、先ほどやまびこの電気代でLEDにしたためにマイナスに、節約できたという報告があったんですが、LEDにしてすごくそういうことがあったんだけど、ほかのところでもそういうふうに考えておられるところがあるのかどうか。

それから、一番下のほうで、長寿祝福事業費、これは事業が終了したということでありましたが、どんな事業であったのか、なぜ終了したのかお願いします。

○分科会長（西田 真） どうぞ。

○社会福祉課参事（小野 弘順） まず、生活保護収入の中身について、私のほうから説明させていただきます。

生活保護の返還金につきましては3種類ございまして、まず1つ目が、資力があるにもかかわらず現金化できないため保護費を受け、現金化された時点で返還するもの、それが63条返還です。この分につきましてはの中身は、先ほどうちの課長のほうから説明させていただきました遡及年金でありますとか、入院給付金、そういったものでございます。

2つ目が78条返還金でありまして、これはいわゆる保護費の不正受給の分です。本来なら、仕事なりして収入があった場合ですとか、年金を受けたら収入にしてもらわなければならないものを未申告であったものに対して保護費の返還を、徴収を求めるものでございます。

3点目が76条の返還金でありまして、これは、第三者行為による医療費の立てかえ分であります。いわゆる交通事故で、起きた場合に、一旦、生活保護のほうで立てかえて、その示談が成立した後に、その分を保険会社からいただくものが76条の返還金ということになっております。以上です。

○分科会長（西田 真） どうぞ。

○高年介護課参事（武田 満之） 先ほどの但東健康増進センターのLEDということで質問を受けましたけれども、高年介護課のほうで所管しております施設については、もうほかのところでLEDの改造とか修繕というのは考えておりません。

それともう1点、長寿祝福事業につきましては、9月に老人月間ということで、県と一緒にあわせてそういうことをしてるんですけれども、長寿の最高齢者のほうのお祝いということと、あと最高齢夫婦のお祝いということで、市長とか、市の幹部が直接訪問して、長寿をお祝いする事業と、あと、満100歳に達成された方につきましては、今年度、記念品ということで保険証などを入れるケースを、直接行って、お祝いとともに記念品をお渡しするというようなことで、そちらのほうは9月いっぱい終わりますので、それが終了しましたので、景品代とかの差額といたしますか、安くなった分を今回減額させていただきました。

○分科会長（西田 真） 上田委員。

○委員（上田 伴子） 先ほどの生活保護法の返還分の件で、それぞれの額はわかりますでしょうか、1番、2番、3番の。

○分科会長（西田 真） どうぞ。

○社会福祉課参事（小野 弘順） 12月10日現在の収入済み額ということでご説明させていただきたいと思います。

まず、63条の現年度分につきましては792万9,387円、これ98%の収入済み額ということになっております。滞納繰り越し分が54万2,269円、88%の収入済みとなっております。

2点目の78条につきましては98万3,155円、92%の収入済み額です。滞納繰り越し分が74万4,687円、88%の収入済みとなっております。

最後、76条につきましては380万7,000円、これは100%収入済みということになっております。以上です。

○分科会長（西田 真） 上田委員。

○委員（上田 伴子） これ不正受給の中身としては、

どのようなことがあったんでしょうか。

○分科会長（西田 真） どうぞ。

○社会福祉課参事（小野 弘順） 生活保護のほうでおきましては、毎年6月に課税調査を実施しております。前年度分の課税収入を調査させていただきまして、その前年度分の、うちの福祉事務所のほうに上がっております収入申告と突合せまして、収入の調査行っております。結局、その収入調査を行って、うちが事前に把握しております収入との差額がいわゆる不正受給額ということになっておりまして、そういったものが、中身といたしましては、年金でありますとか、就労収入でありますとか、そういったものでございます。

○分科会長（西田 真） 上田委員。

○委員（上田 伴子） わかりました。

いろいろその方の生活の内容をしっかりと見ていただいて、本当に不正なのかどうかというところ辺もしっかりと審査していただきたいと思います。

また、長寿祝福事業におきましては、これがなくなったということではありましたが、これにかわるようなものについては、

○分科会長（西田 真） どうぞ。

○高年介護課参事（武田 満之） これ、毎年継続的にやっておりますもので、今年度の実施といたしますか、が終了したいということで、継続です、制度そのものはこれからも継続させていただきます。どうも済みませんでした、説明が悪かったです、済みません。

○委員（上田 伴子） はい、了解しました。

○分科会長（西田 真） よろしいか。

○委員（上田 伴子） はい、いいです。

○分科会長（西田 真） ほかにありませんか。

田中副委員長。

○委員（田中藤一郎） 済みません、2点ほどお願いします。

1点目は、僕も難しいところがわかんないでちょっと質問しますけれども、例年、追加で補正とか組まれる事業だったやつが、今回なくなったりだとか、また、事業に対して増額されてたり、逆に少なくなってるような事業があるのか、それが1点目。

それから、2点目は、新文化会館整備事業に関してですけども、以前のお話の中でありまして、余り問題がないようなことを言われておられましたけども、私自身も一般質問でいたしましたとおり、かなり莫大な税金を投入して会館を建てられる中で、やはり将来にわたって、非常に問題になるのではないかなというふうな部分で、公共施設マネジメントの観点から見ても、ちょっと問題になるのではないかなというふうな部分があるんですけども、その際にも余り明確な答えが得られなかったんですけど、そのあたりはどのように考えてるのかお答えください。

○分科会長（西田 真） どうぞ。

○新文化会館整備推進室長（櫻田 務） 新文化会館の整備について、公共施設マネジメントとの関係ですけども、まさしく新文化会館の整備というのが公共施設の再編というところでトップバッターという位置づけになろうかと思えます。

事業費のほう、56億円という数字を出ささせていただいてるんですけども、現時点では、平均の75万円という歳出根拠でさせていただいております。事業費については、今後、コンパクトな施設にするようにいろいろ努力させていただいて、できるだけ事業費を抑えるっていうことを念頭に置いて事業の計画を進めていきたいと考えております。

○分科会長（西田 真） 田中副委員長。

○委員（田中藤一郎） またしっかりとこのあたりは聞かせていただきますけれども、十分その点、理解が得られるような形をとっていただきたいというように思います。

それから、1つ目に言いました、何か事業がもしなくなってるだとか、そういったものがなければいいんですけど。

○分科会長（西田 真） 田中副委員長。

○委員（田中藤一郎） ないようですので、よろしいです、済みません。

○分科会長（西田 真） よろしいか。

○委員（田中藤一郎） はい。

○分科会長（西田 真） ほかにありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（西田 真） 質疑を打ち切ります。
討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（西田 真） 討論を打ち切ります。
お諮りいたします。本案は、原案のとおり可決すべきものと決定してご異議はありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（西田 真） ご異議なしと認めます。
よって、第154号議案は、原案のとおり可決すべきものと決定いたしました。
分科会を暫時休憩いたします。

午後1時50分 分科会休憩

午後1時53分 委員会再開

○委員長（西田 真） それでは、休憩前に引き続き、委員会を再開いたします。

陳情第3号、公立豊岡病院組合内病院の充実に関する陳情についてを議題といたします。

事務局より、請願・陳情文書表の朗読をお願いいたします。

○事務局主幹（木山 敦子） 受理番号、陳情第3号。件名、公立豊岡病院組合内病院の充実に関する陳情について。受理年月日、令和元年11月27日。

要旨。厚生労働省は、病床削減のため、再編統合の再検討を促すとして、424の公立、公的病院を公表した。その中に、日高・出石医療センターの名が上がっている。

しかし、市民は身近なところで治療、入院ができ、在宅医療とも連携できる病院の充実を求めている。

そのためには、医師の絶対数が少ないことによる医師不足など、医師確保が難しい状況を改善し、病院を安定的に運営できる国の医療政策などが必要である。

国の病床削減、再編統合に反対の意思を表明し、公立豊岡病院組合には病床削減、再編統合をしないよう要請してほしい。

また、組合財政では、急激に内部留保資金が減少している。但馬には国、県の病院がない中、自治体

と住民が協力し合って病院を維持してきた。救急や周産期など、広域的な事業で赤字を出しており、国、県の支えが必要である。国、県に対し財政支援を要請してほしい。

記。1、国の病床削減、再編統合再検討の方針に反対の意思を表明し、公立豊岡病院組合には病床削減、再編統合しないよう働きかけてほしい。

2、医師不足により病院の経営が困難になるケースも生まれており、大学医学部の定数をふやすなど、医師不足解消のために国が責任を持つよう働きかけてほしい。

3、救急や周産期医療など、広域的な事業については経営を圧迫しており、国、県立病院に準じた財政支援を要請してほしい。

提出者、豊岡市今森465-1、地域医療をまもる但馬の会代表、西垣栄。付託委員会、文教民生委員会。以上です。

○委員長（西田 真） ただいま当局から朗読をしていただきました。

それでは、この件について、当局から意見、説明等をありましたらお願いいたします。

どうぞ。

○健康福祉部長（久保川伸幸） 今、出されております陳情について、これ、うちが直接事務を行っているものではございませんので、所感というか、感想的なことにどうしてもなるかと思いますが、ご了解をお願いできればと思います。

まず、書かれている全般的なことを見ると、もっともな部分も、そうかなというところで感じることはできます。

私どもとしましても、厚労省が今回、病院の再編統合が必要だ、そういった議論をちゃんとせえというようなところで、公立病院と公的の病院、済生会だとか、そういった公的な病院だけで424の病院名を公表したということについては、非常に唐突だなと、地域に何らこういったことでっていう説明もないままこういった発表がされたということについては、非常にどうだろうかと、ちょっと丁寧に欠けているのではないかなという思いはいたしま

す。

その中で、豊岡市内でいきますと、この2医療センターが公表されたということで、この新聞だけを見ていきますと、市民の方々が、えっ、どうなるんだろう、本当になくなるんかっていうような思いを持たれるんだろうなというのは私どもも感想としては持ちます。

ただ、そこで、具体的に、今度この陳情の内容の部分を見ていきますと、若干どうかと思う部分がございますので、その辺、少し説明をさせていただけたらと思います。特に、ここの陳情の中に、意見書案もついてる中で、この表で書かれている1、2、3の陳情項目と、意見書で書かれている、このことを要請してくださいって書かれてる1、2、3とで、特に1番あたりがちょっと内容が違う部分があるなど。

陳情、表のほうでは、公立豊岡病院に対しても再編統合しないようにっていうことで働きかけてくださいっていうのがあるんですが、意見書のほうには、その部分がないというところで、これは、意見書のほうは国向きですので、あえてその辺が抜けているのかなとは思いますが、今回のこの陳情の趣旨そのものは、表の部分が全体としての思いなんだろうなということからするとという部分でありますけども、まず、この1項目めの要望で、国の再編統合等の再検討の方針に反対の意思を表明してくれというようなことで書いてある部分につきましては、私どもは、国全体、また県全体、さらに但馬地域全体というこの中で、その地域に必要な医療をどういう体制をとっていくことが2025年に必要なのか、それは当然にやっぱり考えていく必要があると。構成市であります豊岡市においても、この但馬の3市2町が、但馬に本当にどんな医療が必要なのか、そのあり方が実際にどうあるべきかということについては、その時代時代に応じた体制をとっていくということをしっかり考えるということは必要でありますので、ただ反対ということでもいいのかなという気はいたします。ただ、この辺は微妙なところという思いをいたします。

その表書きの中の1番の後段の部分で、先ほどの公立豊岡病院組合には病床削減の再編統合しないよう働きかけてほしいというようなことでございます。

この辺、豊岡病院のほうの思いというのもちよつと紹介できたらと思いますが、きょうお配りをいたしました資料というか、新聞報道等の資料があるかと思いますが、その中で、この424の病院名が公表されたということを受けて、9月の27日の神戸新聞ですけれども、その3段目から4段目のところで、公立豊岡病院の「管理者は」というようなところで、この公表については、急性期は豊岡病院が担って、医療センターは回復期に転換すべきということじゃないんでしょうか、施設の役割を再検討し、地域全体で議論したいというようなところで、議論をすることはやぶさかではないということだろうかなと。豊岡市としても、基本的にはそういうことかなと思います。

先ほどの新聞報道の裏面、2ページ目のほうでは、豊岡病院組合自体が「ほすびたる」という広報紙をつくっておられますけれども、その中で、6ページの部分に、厚労省が病院再編統合について発表したということについての病院組合としての思いみたいなことをここで表明をされておりますけれども、この11月に出された広報紙です。

真ん中、後段あたりのところで、東京都と同じ面積を持つ但馬の中で、公立病院が中心になって入院医療を担っていると。それぞれの役割分担も進んでいる。豊岡病院、日高医療センター、出石医療センターの医療はそれぞれ異なって連携をしていると。役割分担はちゃんとしているし、これからも進めるというような趣旨であります。

その後段のほうには、今回の発表は要らぬおせっかいだということで、えらい踏み込んだ表現で、豊岡病院としても怒りの気持ちといいますか、そういったことが表現されているなどはと思いますが、これも含めて、それぞれの病院の役割分担をちゃんとしていながら、豊岡市、また但馬全体に必要な医療の体制をちゃんと整えていくということは、病院組

合も豊岡市も考えていく必要があることではある。

ですので、単に、ただこれでもう反対で、議論をするなどという姿勢というのは、行政の私どもの立場からするといかがかなとは思いますがというのがこの1点目の事項です。

それから、2点目の医療不足に関しての記述であります。

全体として医師不足解消に向けて、国がもう少しイニシアチブを持って地域の医療体制が不足しないように、そういったことに貢献できるような仕組みをつくってくれということについては、私どもも大いに賛成をするというところではあります。

ただ、ここに書いてあります、例示的にあります大学医学部の定数をふやすなどというところかというと、地方の医師不足、診療科の偏在というのが、このことだけによって解決するか、むしろ、このことで本当にそういった効果があらわれるかということ、少し疑問があるなという思いをいたします。

意見書のほうのところでも今回この団体が書いておられる、WHOだとか、OECDと比べて、日本が、要は医師が比較的数が少ないというふうにおっしゃっています。これは、ここに書いてあるとおりではありますけれども、その医師不足だけ、医師がそういった国々よりも少ないことだけでもって医療が不足しているのかということ、必ずしもそうではない。

例えばアメリカでも比較的低い位置にありますが、やっぱりそこは質の問題であったり、地域の偏在をいかにどうしていくかということのほうにむしろ課題ではないかなということからすると、今回の地方の医師不足というのは、大いには新専門医制度との関係もあって、そういったところをうまく捉えていくということがどうしても必要になるのではないかな。

例えば公立豊岡病院でしたら、救急の分はもう先生が押し寄せてくるというような状況も一方ではある。そういった、医師にとって魅力のある医療機関であると。来たいと思える医療機関であるかどうかということが一つ課題にはなるのかなという

ころがどうしてもありますので、その辺、具体的に、じゃあ、どうしていけばというところは私どももないわけではありますが、この大学の定数をふやしただけで何らか対応ができるかという、少し疑問があるなという部分はあります。

というのがこの2点目についての感想といいますか、になります。

それから、3項目めのところで、救急、それから周産期などについては、そもそも経営を圧迫しがちですので、国や県立病院と同じように財政支援してくれないかというような趣旨の陳情を要望されるという内容です。

ここは、確かに救急ですとか、周産期については、医業収支だけでいきますとマイナスです。ですが、これをどう支えているかという、これが公営企業法によります繰り出し基準というのがあって、それは地財単価、地方財政需要業額での単価が決まっております。これに掛けて、必要な額については構成自治体、豊岡市と朝来市等々が負担を実際にはしている。そのことによって、全体の収支についてはほぼペイをしてるといいですか、そういった状況にございます。

そうした状況の中で、国、県に対して財政支援をということで要望することは可能だとは思いますが、何に対して財政支援をしてくれという言い方をするかというところが見えないと、単に財政支援をというだけでは難しいのかなと。

そうしたときに、今言った繰り出し基準によります補填、そこは既に構成自治体等で対応ができているとなると、例えば県立病院におきましても、この病院に対して県自身が何かをしているかということ、この公営企業法に基づきます繰り出し基準の数字を出すというところまでの対応しか恐らくしておりませんので、今その部分については、豊岡市と朝来市という構成自治体で対応が済んでいるという理解をされる。そのときに何を、財政支援をというのかというところが見えないと、少し要望の仕方としては十分ではないんじゃないかなということがございます。

そういったことで、総じて書かれていることの趣旨は、気持ちはよくわかるなと思いつつも、じゃあ、これでもって、このままの陳情ということで出していくのかという、少し疑問があるなというのが正直な感想ということになりますけれども、私としては、そういった理解をいたしております。

とりあえず以上です。

○委員長(西田 真) 当局の説明は終わりました。
質疑、意見等はありませんか。どなたからでも結構です。

竹中委員。

○委員(竹中 理) 済みません、今、文章も読んだんですけども、厚生労働省から発表されたというふうにあります。ちょっとこれは県の党のほうに問い合わせちょっとしたんですけども、確認もしていただいたんですけども、これ厚生労働省が発表はしたんですけど、審議会、何だ、地域医療構想の審議会の中で、地域医療構想の2025年までに検討したほうがよいかもしいかなという意見を取りまとめた、拘束力も何もないもので、それを新聞が発表しているという、そういう状況の中で、正式な、厚生労働省から、全国から非常に批判がいっぱい出たので、現在は、厚労省としては具体的に発表というか、正式な、動いてないというのが実情らしくて、これに関して、井戸知事なんかも厚生労働省に申し入れをされるという状況の中で、そういう状況なので、市議会としてしばらく様子を見たほうがいいんじゃないかなというふうな思いであります。

ですから、丸にとかバツとかじゃなくて、様子見たほうがいいのかというふうな思いであります。

いろんな文書の中でも、厚生労働省からという発表があるんですけど、実際、その辺、もう僕もまだ本当に確認、その審議会のというのがちょっとあれなんですけども、とりあえず今……(発言する者あり)以上です。

それに関して何か。

○委員長(西田 真) どうぞ、久保川部長。

○健康福祉部長(久保川伸幸) 先ほど手元にお渡し

を事前にさせていただいております資料3ページ目に、これは時事通信の新聞等々も、報道も載っているんですけども、もともと厚労省としては、厚労省か、その審議会かって言われると、ちょっと私ども、そこを正確に押さえてるわけではないんですが、一応、発表としては厚労省がされてる中で、動きとしては、厚労省絡みでもう今、動きとしては出てますので、その中でいうと、もともとこの再編統合については、2020年の9月までに一定のまとめをしてくださいというのがもともとだったんですけども、これには、今回発表されたのが公立病院と公的医療機関だけでしたけれども、本来は、それに民間も含めて、全体としてどうだという議論が必要なところに、民間の分のデータについてはなかなか公表し切れない状況にあって、実はそれもあるので、結果として少し統合の検討の期間を9月というのをもう先延ばししましょうということで、国自体もあえて動いていないという状況になっていることは、おっしゃられたとおりかというふうに理解しています。

○委員長（西田 真） ほかに質疑、意見はありませんか。

井上委員。

○委員（井上 正治） この発表は、あくまで厚労省の、言ってみれば参考資料といいますか、というふうなもののように感じますし、豊岡市としては、豊岡病院の一構成員であるということなので、議会が本当に、一員として単独で意見を出すことが本当はいいのかどうかということについてはちょっと疑問を感じるところであります。

それからまた、先ほど、医師不足の関係ですけども、これ厚労省から発表された内容においては、医師不足というのは、これどこでも、わかるんですけども、この公表された資料に対して、大学まで、医学部の増員まで踏み込んでいいのかなというふうな、それもちょうとまだ非常に疑問を呈するところでもあります。

また、3項目めの救急や周産期医療については、先ほど久保川部長が言われたように、やっぱり損失、

基礎に基づいて、しっかりと、補正のほうも含め、補填をされてるというふうなこともありますので、本当に、先ほど、具体的に何を国に対して求めるかということについてもちょっといろいろと疑問を感じる場所がありますので、そういう部分では、まだまだいろんな形で話といたしますか、いろんなことをもっと我々が知っていかないとわからない部分というのは多々あると思いますので、その辺をちょっと疑問を持ちながら、この陳情書は読ませていただいたところです。以上です。

○委員長（西田 真） 意見ですね。

○委員（井上 正治） はい。

○委員長（西田 真） ほかにありませんか。
上田委員。

○委員（上田 伴子） 今、健康福祉部のほうから説明があったんですが、赤字になっている部門については、朝来市と豊岡市で補填しているということでしたが、では、豊岡病院において大幅な赤字があると聞いてるんですが、それはちょっとどういう理由で大きな赤字を生んでいるということなんでしょうか。

○委員長（西田 真） どうぞ。

○健康福祉部長（久保川伸幸） 赤字という言い方になるのかどうか、内部留保資金が非常に減ってきているということで、もともと最大のときには10何億円からあった内部留保資金が、今、数千万円というようなレベルまで減ってきていると。ここが本当になくなってしまえばという懸念は確かにされるという状況にはございます。

そこは経営改革プランの中でも、実は今そもそも、医療、診療科によつての医師の偏在があったりというふうなところがございます。救急はなかなかもうけるという分野ではないですけども、ご存じのように、医師は非常に多く来ていただけているという状況。一方で、内科系の呼吸器ですとか、さまざまな診療科については、本当に1人、2人というような医師の体制の中でやっていかざるを得ないような現状もある。そこは十分な対応がなかなか、逆にしにくい。これ医師1人ふえればというのは、必ず

こういった普通の診療科については、医師がふえればそのまま診療収入の増加ということにもつながっているという現実が見えていますので、経営改革プランの中でも、こうやって医師数をちゃんと確保していくというようなことが計画の中では上がっておりますが、なかなかそこが実現し切れていないというのは一つの課題であろうなというふうに考えています。

○委員長（西田 真） 上田委員。

○委員（上田 伴子） 内部留保資金が減っていったらというのは、やっぱりその経営のほうに、そこを持ち出ししてるから減っていくんであって、実質的に赤字だということにはなるのかなって私は認識しますけれども。

あと、やはりそこら辺がだんだん逼迫してくるっていうのは、豊岡病院を抱えている救命救急とか、それから周産期医療の辺で、また、前、おったときに聞いたことがあるんですけども、精神科医療の関係で、豊岡病院で抱えているところがやっぱり赤字要因につながっていったらということを知ることがありますが、そこら辺の見解はどうですか。

○委員長（西田 真） どうぞ。

○健康福祉部長（久保川伸幸） ご指摘のように、例えば救急ですとか、周産期系統、それから精神というようなところが医業収支だけでいうと、やっぱり赤字というか、マイナスは大きい。そのほかにも診療科別でいきますと、皮膚科ですとかでも結構なマイナス部分というか、そういった数字には見えてくるというようなこと。それぞれに、あと内科系でも、みんな寄せると、やっぱりそれぞれに赤字というような状況がありますので、全体としては非常に厳しい医師体制の中で、厳しい経営が強いられているという現状は確かにあるかなというふうに理解します。

○委員長（西田 真） 上田委員。

○委員（上田 伴子） やはり厳しい経営の中で、内部留保資金が本当に数千万円になってきていることを改善しないと、豊岡病院としてのやっぱり医療体制、きちんと健全な医療体制が維持できなくなると

いうことでは、構成市だけではなく、国、県の支援が必要ではないかなと私は思いますが、そこら辺いかがですか。

○委員長（西田 真） 久保川部長。

○健康福祉部長（久保川伸幸） ここにどんな支援をしていくことが構成自治体であったり、国、県にとって必要な対応なのかっていうところが、要望するからには、多分そういったところが明確に示されないとかがかなというふうに思います。

その中でいうと、先ほども少しお話しさせていただきましたが、公営企業法に基づきます繰り出し基準の数字を自治体としては既に対応をしている。そこに、例えば県が手出しをしたり、国が手出しをしたりっていうことの余地があるかということ、今、必要な繰り出し基準については基礎自治体で対応もしておりますので、それ以外に成ると、そこを、じゃあ、何でもかんでも財政支援だっていってしまうと、それは恐らくもって経営破綻といいますか、自治体も一緒に潰れるというような話にも、下手をするとなりかねないと。そこは一定のルールがあってしかるべきかなっていったときに、何に対して支援をするということを求めるのかというところがやはりある程度、要望するからには必要になるのではないかな。

それからすると、ちょっと今、その要望の仕方としては、明確な基準がない、厳しいので支援してくれという言い方にしかならないというような難しい分野かなというふうに思います。

○委員長（西田 真） よろしいか。

上田委員。

○委員（上田 伴子） その構成市の繰り出し基準においてはいっぱいいっぱいだと、それぞれの自治体の財政状況も踏まえて、いっぱいいっぱいかなと思いますが、それ以外でのやっぱり国、県の病院が北部にないと、但馬地域にないということにおいての、そういう理由づけによる、国、県の財政支援というのは求められないでしょうか。

○委員長（西田 真） 久保川部長。

○健康福祉部長（久保川伸幸） その場合においても、

何に対して国、県が、国立病院や県立病院もない、この但馬地域で、この病院に対して何をどう支援してくれというのかってところが明確である必要が多分あるんじゃないかなと。そうしたときに、既に構成自治体によって繰り出し基準に求められる繰り出しは対応しているといったときに、その内訳が、例えば兵庫県が豊岡市の持ち分の幾つかを、例えばですけども、持ってくれるっていうなら、そこは県立病院だったら、本当は持ってるでしょうという部分にはなるのかなと思うんですが、そこは、豊岡病院を助けるというよりは、豊岡市の財政を助けていただくということになると。それはそれで、豊岡市としてはありがたいんですけども、豊岡病院を救うがためについていったときには、それでは多分、おっしゃられる趣旨の部分はクリアしないと。

そうすると、既に繰り出し基準で求められている対応は、豊岡市や構成市で済んでいるにもかかわらず、さらに、その上についていう、何を求めるのかということがやっぱり要望する上においては必要じゃないかなと思うんですが、そこをやっていくということを求めるということが本当にいいのかどうかということもありますので、その辺は、私どもとしては、この繰り出し基準が一定の線ではないかなという思いはいたします。

ごめんなさい、豊岡市としても、実際に繰り出し基準、全ての項目が今しているかということ、実際に豊岡病院としてその体制がとれているにもかかわらず、仮に豊岡市や朝来市がしてない部分があれば、それは新たに追加していくというような対応は、それはまた必要であろうかなと思いますが、今、現状においては、そういった対応はしているという認識でございます。

○委員長（西田 真） よろしいか。

○委員（上田 伴子） はい、いいです。

○委員長（西田 真） ほかにありませんか。

清水委員。

○委員（清水 寛） 先ほどから皆さんから議論が出てくる中で、特に、先ほど説明受けた中でも、これから民間病院についても情報が出てくるという

ことですし、内容は本当にこの地域にとって重いテーマだと思います。

そういう意味では、もう少し勉強する時間が必要かなと思いますので、継続審査としてはどうかと思いますけど、いかがでしょうか。

○委員長（西田 真） ただいま清水委員から、陳情第3号については、閉会中の継続審査とされたいとの動議が提出されました。

直ちに、本動議を議題といたします。

お諮りいたします。本動議のとおり決定することに賛成の委員の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

○委員長（西田 真） 全会一致でよろしいか。（「はい」と呼ぶ者あり）

全会一致で、陳情第3号は、閉会中の継続審査とされたいとの動議は可決されました。

ただいま継続審査動議が可決されましたので、お諮りいたします。陳情第3号は、議長に対して閉会中の継続審査事項として申し出たいと思いますが、これにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（西田 真） ご異議なしと認め、そのように決定いたしました。

委員会を暫時休憩いたします。

午後2時24分 委員会休憩

午後2時28分 委員会再開

○委員長（西田 真） 休憩前に引き続き、委員会を再開いたします。

陳情第4号、豊岡市の幼稚園・保育園・認定こども園の統合計画、学童保育所、小学校区についての陳情書を議題といたします。

事務局より、請願・陳情文書表の朗読をお願いいたします。

○事務局主幹（木山 敦子） 受理番号、陳情第4号。件名、豊岡市の幼稚園・保育園・認定こども園の統合計画、学童保育所、小学校区についての陳情書。受理年月日、令和元年12月5日。

要旨。豊岡市の幼稚園、保育園、認定こども園の

統合計画、学童保育所のあり方についての審議会答申が公表され、10月10日から6会場で市開催の市民懇談会において簡略な説明があった。

保護者を初め、市民の間では、小学校区を超える統廃合、市立園の廃止と私立園化などについて不安が広がっている。しかし、この答申や計画について説明を受けたり、知らされたりしている市民はごく一部にすぎない。

また、豊岡市議会12月定例会には、小中学校の適正規模・配置に関する審議会設置条例案が提出され、人口減少等により、小学校区の統合が検討される見通しとなっている。

については、市民を代表する豊岡市議会が豊岡市長、豊岡市教育委員会に次の趣旨を実施するよう求め、また、豊岡市議会の最善の配慮を要望する。

記。1、豊岡市の幼稚園、保育園、認定こども園の統合計画、学童保育所、小学校区のあり方について、全ての小学校区ごとに答申、計画案等の市民への説明、懇談会を開催してほしい。

2、豊岡市の幼稚園、保育園、認定こども園、小学校区の統合計画、学童保育所のあり方について、全ての市民、世帯を対象に、アンケート調査の実施を含む、意見要望の集約を行ってほしい。

3、豊岡市議会が幼稚園、保育園、認定こども園の答申、統合計画、学童保育所、小学校区のあり方について、議会閉会中も研究調査、市民への情報公開、広報等の特別措置を行ってほしい。

提出者、豊岡市大磯町2-53、豊岡子どもの幸せを願う会準備会代表、足立美都子。付託委員会、文教民生委員会。以上でございます。

○委員長（西田 真） この件について、当局から意見、説明等はありませんか。

それでは、この件について、質疑、意見等ありましたら、どなたからでもお願いします。ありませんか。質疑はありませんか。

井上委員。

○委員（井上 正治） このことについてはいろいろとありまして、この陳情書の中身にも、2行目に、審議会の答申って書いてあるんだけど、これは会議

ですね。（「審議会というか、あり方計画の検討委員会とちゃうか」と呼ぶ者あり）そうか、わかった、いいです。そうか、済みません、もとへ、今のは取り消します。

要するに、この3項目めですけども、特に、閉会中の調査研究、市民への情報公開、広報等の特別措置を行っていききたいというふうな要望が出されておりますけども、実は、うちの委員会の中にも、調査項目事項で、実際、教育をめぐる諸問題についてという項目がございます。これは休会中も調査研究をするということになっておりますので、この部分は十分果たされてると思いますし、それと同時に、特別措置というのがどのようなものを望んでおられるのが全く内容が見えてこないなという思いをいたしておりまして、こういうことの部分であるとか、それからまた、しっかり市民の、この計画については市民説明会やパブコメ等の意見等を聞くことは行われておりますので、改めてアンケートを実施ということにつきましては、必要があるのかなっていうことは疑問に思っております。以上でございます。

○委員長（西田 真） それは質問ですか、意見ですか。

○委員（井上 正治） いや、もう意見です。

○委員長（西田 真） ほかにありませんか。よろしいか。

それでは、討論に入りたいと思います。

当局の皆さんには説明等は特にありませんでしたけど、ありがとうございます。討論に入ります前に、ここで退席していただいて結構です。お疲れさまでした。

暫時休憩します。

午後2時34分 委員会休憩

午後2時35分 委員会再開

○委員長（西田 真） 委員会を再開いたします。

討論におきましては、各委員が発言された内容は、後ほど議報や委員長報告を作成する際に引用することになりますので、よろしくお願ひいたします。

それでは、討論はありませんか。

福田委員。

○委員（福田 嗣久） 私は、この陳情第4号に不採択という立場で意見を申し上げたいと思います。

酌ませていただくとこはたくさんあるなど思いながら、不採択討論ですけれども、まず、幼保のあり方検討委員会での答申が出されました。10月10日より、公共施設マネジメント計画の一環として、説明会が市内6会場で開催されました。大変唐突な感のする幼保の統合再編計画であり、また、短時間の説明、懇談会であったため、不安感、不信感が大変広がってきているということは受けとめております。

しかしながら、今、意見でも出されておりました、記の部分で、全ての小学校区に対する市民説明、懇談会、あるいは記の2番目の、全ての市民、世帯を対象にアンケート調査、それから、記3にあります、市議会の特別措置、こういったことに対しては理解できないところもございますので、この陳情につきましては不採択をせざるを得ないと、このように考えております。

しかしながら、不安感が広がっていることも事実であることから、特に要望のある地区に対しましては、計画がまとめられる、あるいはその前であっても、地元説明、あるいは意見聴取等を行い、地元の意見や要望をしっかりと受けとめ、そして妥当な計画となるように、妥当で、そして理解が得られる計画となるように、しっかりと努力していただきたいと、こういうことを要望しながら、不採択の意見とさせていただきます。以上です。

○委員長（西田 真） ほかにありませんか。

上田委員。

○委員（上田 伴子） 私は賛成の立場で意見を申し上げます。

9月に豊岡市子ども・子育て会議から、豊岡市における幼児教育、保育及び放課後児童のあり方についての答申が出され、市における幼稚園、保育園、認定こども園の再編計画が示されて、市内6会場で答申内容の市民説明会が、公共施設の再編計画とと

もに説明され、市民懇談会が持たれました。どの会場も多くの市民が参加して、多くの不安や疑問の声が出されました。

また、12月議会には、小中学校の適正規模・配置に関する審議会条例が提出され、豊岡市における学校を取り巻く状況について慎重審議していくことが求められます。

この陳情にあるように、豊岡市の歴史ある教育を根本から揺るがすような答申となっていると思います。

豊岡市として、豊岡市議会として、陳情にある内容へと取り組んでいただくようお願いして、賛成討論とします。

○委員長（西田 真） ほかにありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（西田 真） それでは、討論を打ち切ります。

これより採決いたします。

採択、不採択の意見がありましたので、挙手により採決いたします。

本件は、採択すべきことに賛成の委員の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

○委員長（西田 真） 賛成少数であります。よって、陳情第4号は、不採択とすべきことに決定いたしました。

委員会を暫時休憩いたします。

午後2時39分 委員会休憩

午後2時45分 委員会再開

○委員長（西田 真） それでは、休憩前に引き続き、委員会を再開いたします。

それでは、(3)番、報告事項についてです。

まず、健康福祉部健康増進課から報告事項がありますので、お聞き取りいただきたいと思っております。

骨髄移植後の予防接種の再接種に対する助成制度の創設について、よろしくお願ひします。

どうぞ。

○健康増進課長（宮本 和幸） お手元のほうに資料

を配付、両面のものが行っていると思いますが、ご確認をお願いしたいと思います。

まず、1番目、概要です。

小児がん治療として骨髄移植等を行った場合、移植前に接種した予防接種の免疫は低下、または消失するため、移植後に予防接種の再接種が推奨されています。

当該対象者が再接種を行うことで免疫を再獲得し、ひいては集団感染や蔓延を防止することができることから、再接種の費用について助成を行いたいと考えております。

2の対象者としては、市に住民票があつて、予防接種を受ける日において20歳未満の方、もう一つ、骨髄移植等によって、移植前に接種した定期予防接種の免疫が低下、または消失し、再接種が必要と医師が認める方、もう一つ、助成対象者及び同一世帯に属する者の市民税所得割額の合計が23万5,000円未満の方ということです。

3、助成対象となる予防接種ですが、A類の疾病の定期予防接種、結核を除きます、これはちょっとまだ安全性について検証が出てないということで除かれています、のうち、移植前に実施した予防接種で、免疫が不十分で再接種が必要と医師が認めた予防接種になります。

種類については、また後ほど、裏面に書いてありますので、説明したいと思います。

4番、助成方法ですが、償還払いということで、一旦納めていただいて、後からお返しするという形をとりたいと。2として、金額ですが、市が契約している予防接種委託料及びワクチン代の合計が上限額としております。

実際に接種される病院によっては金額が違いますので、実支払い額か、この上限額か、どちらか低いほうということで考えております。

5番目、対象者・予算見込みですが、対象者見込みは1名ということで、県のほうも行ってまして、県下41市で25名ということですので、1名対象があるかないかというような状況です。

それと、予算見込みですが、計として10万8,

213円、これは1年間で接種できる最大値ということで、予防接種は期間、1回打ってから、また次の打つ期間とかがありますので、年間受けても、最大がこの金額かなと考えております。

裏面をお願いします。

表があります。ここが、先ほど言いましたA類の定期予防接種ということで、7種類ありまして、それぞれ単価と回数、見込みの所要額となっております。それぞれ種類が違います。回数については、大体倍ぐらい、これの倍ぐらいを打ってもらうような形になります。

6番として、健康被害発生時の対応ですが、これについては、独立行政法人医薬品医療機器総合機構法に基づく救済措置がありますのと、豊岡市の予防接種事故の災害補償要綱で適用して、必要な措置を講じたいと考えております。

7番のスケジュールですけれども、ここでは、来年1月実施予定としております。まだこれから細かい要綱や手続等がありますので、できる限り早くしたいんですが、1月ぐらいになるのかなと考えております。

周知としては、広報やホームページ、それから、各医療機関を通じて周知したいと考えております。

説明は以上です。

○委員長(西田 真) 説明は終わりました。

これらの説明に対しまして、委員の皆さんで特に質問等があればお伺いいたします。どなたからでもどうぞ。

田中副委員長。

○委員(田中藤一郎) 対象者の部分なんですけれども、全国的にはどういうふうな形なんでしょうか。

○委員長(西田 真) どうぞ。

○健康増進課長(宮本 和幸) 申しわけございません、全国的な対象者の人数というのはちょっと把握してないです。(発言する者あり) はい。県下でいくと、大体25名を県のほうでも見込んでおられるということです。

○委員長(西田 真) 田中副委員長。

○委員（田中藤一郎） 済みません、ちょっと聞き方が悪かったですね。

こういう、どういうんでしょう、助成の制度っていうような部分で、全国的には、豊岡、今回やられるんですけども、どれぐらいのレベルといいんでしょうか、低いのか高いのか平均的なのか、そういうちょっと立場といいんでしょうか、豊岡の置かれている状況っていうのを教えてほしいんです。

○委員長（西田 真） どうぞ。

○健康増進課長（宮本 和幸） 今年度、県の分しかちょっとデータを持ち合わせてないんですが、県下で実施されてるのが17団体あります。金額、それぞれ助成をされてる金額は、多分、考え方としては、それぞれの市町の上限額ということで統一はされてるのかなと思ってます。ただ、その団体によって、この委託料やワクチン代はそれぞれ違いますので、多少前後はあるというふうに考えております。

○委員長（西田 真） 田中副委員長。

○委員（田中藤一郎） わかりました。

○委員長（西田 真） よろしいか。

○委員（田中藤一郎） はい。

○委員長（西田 真） ほかにありませんか。

竹中委員。

○委員（竹中 理） 1名対象者があると想定ってあるんですけど、豊岡市内で何かそういうあれがあるんですかね。そういう、おられるような、該当される。

○委員長（西田 真） どうぞ。

○健康増進課長（宮本 和幸） 今年度ではないんですが、過去に1名、そういった方からの問い合わせがありますので、年間1名あるかないかと、ちょっとこちらのほうでは把握はできないんですが、あるかなと思ってます。

○委員（竹中 理） わかりました。

○委員長（西田 真） よろしいか。

○委員（竹中 理） はい、いいです。

○委員長（西田 真） ほかにありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（西田 真） それでは、健康増進課の皆

さん方につきましては、ここで退席していただいて結構です。お疲れさまでした。

暫時休憩します。

午後2時53分 委員会休憩

午後2時54分 委員会再開

○委員長（西田 真） 休憩前に引き続き、委員会を再開いたします。

次に、コミュニティ振興部新文化会館整備推進室から報告事項がありますので、お聞き取りください。

豊岡市新文化会館整備基本計画（案）に関するパブリックコメントの結果について、報告をお願いいたします。

どうぞ。

○新文化会館整備推進室長（櫻田 務） 私からは、11月15日から28日までの14日間、パブリックコメントを実施させていただきました。33件、9人の方からご意見いただきましたので、そのご意見に対する市の考え方というのをご報告させていただきます。

それでは、お配りしております資料の1ページでございます。

施設の構成についてということで、施設の目的と機能を明確に、美術作品等展示室部門の設置や諸室の機能、規模に対するご意見です。

市としては、重ね使いができるように必要な備品を整えるということとしておりますので、特定部門に特化した施設とする考えはございません。

次に、2ページでございます。2ページに大ホールについてというところで、ナンバー4からですけども、客席は1,000席にすべきというご意見をいただいております。

これにつきましては、将来人口の減少を見据える中で、実際に必要となる客席数、または財政状況を勘案して、将来世代に過度な負担にならないようにすること、これが一番重要だと考えております。今後、最もふさわしい規模について検討していきたいと考えております。

また、3ページには、吹奏楽のコンクール等で使

用不可能になるという、ナンバー6あたりからですが、このご意見につきましては、コンクール等の運営の方法について工夫して対応していただきたいと、このように考えております。

また、舞台の広さを現市民会館より広げるべきのご意見をいただいております。ナンバー8あたりからですが、舞台の横幅や奥行き、舞台袖は現市民会館より広くする計画としておりますので、出演者の方にも利用していただきやすくなると考えております。

次に、4ページでございます。4ページの13番に、どんちょうは2幕の設置を検討してほしいというご意見をいただいております。

これにつきましては、どんちょうの維持管理には、いわゆる上げ下げする昇降装置とか生地のメンテナンス等、多額の経費が必要となりますので、今後、検討を進める中で、ご意見は参考とさせていただきたいと考えております。

その他、設備の充実を希望されるご意見をいただいておりますので、今後、検討を進める中で参考とさせていただきたいと考えております。

次に、5ページに、多目的ホールについてということで、19番からいただいておりますが、プロレベルが展示したくなるような設備や町なかの美術館的な役割をというご意見でございます。

市としましては、さまざまな用途でご利用いただくことを基本と考えておりますので、特定の事業等に特化した施設とする考えはございません。

次に、創作室兼ギャラリーについてということで、創作空間は塗料等の使用で清潔感のある空間にはならないので、展示空間とすみ分けをしてほしいというご意見でございます。これにつきましては、できるだけ多くの方々に利用していただきたいことを基本としておりますので、使用方法等、シートを敷くなどして対応をするということで考えております。

次に、6ページでございます。交流部門についてということで、人の出入りが多くなることで安全面や環境面が心配であるというご意見をいただ

ております。この内容につきましては、高校生のワークショップでいただいた学生からのご意見も取り入れております。中学、高校生を含む市民が身近な施設と感じていただくためにも必要なスペースと考えております。安全面、環境面に配慮し、市民が安心して利用していただける施設になるように、ご意見参考にさせていただきたいと考えております。

25番に駐車場についてということで、現市民会館の取り壊し後に駐車場に整備してほしいというご意見をいただいております。これにつきましても、跡地利用については駐車場として整備することを検討したいと考えております。

次に、7ページですが、施設の考え方についてということで、森林帯、同窓の森のことだと思われましても、学習に利用されてるので大切に整備をしてほしいというご意見をいただいております。これにつきましても、小さな子供たちにも魅力的な場となるように、今後の参考とさせていただきたいと考えております。

次に、管理運営計画に関する運営組織についてということで、施設の管理者をどうするのかというご意見をいただいております。これについては、具体的な検討は今後実施する管理運営計画の中で慎重に検討させていただきたいと考えております。

また、事業方針について、会館の利活用の広域化や地域間交流、少年・少女に対する育成、拡充ということでご意見いただいております。これにつきましても、今後実施する管理運営計画の中で十分検討させていただきたいと考えておりますので、ご意見は参考とさせていただきたいと考えております。

その他詳細につきましては、ご清覧をお願いしたいと思います。

なお、この回答につきましては、12月9日に市のホームページのほうに記載をさせていただいております。

また、委員の皆様以外の議員の皆様には、本日配付をさせていただきたいと考えております。

私のほうからは以上でございます。

○委員長（西田 真） 報告は終わりました。

これらの報告に対しまして、委員の皆さんで特に質問等があればお伺いいたします。どなたからでも結構です。どうぞ。

○委員（福田 嗣久） 読ませていただきます。

○委員長（西田 真） よろしいか。

それでは、新文化会館整備推進室の皆さんにつきましては、ここで退室していただいて結構です。お疲れさまでございます。

暫時休憩いたします。

午後3時01分 委員会休憩

午後3時02分 委員会再開

○委員長（西田 真） 休憩前に引き続き委員会を再開いたします。

続きまして、教育委員会、こども育成課から報告事項がありますので、お聞き取りください。

第2期子ども・子育て支援事業計画について報告をお願いいたします。

どうぞ。

○こども育成課参事（山根 哲也） 私のほうからは、平成27年3月に策定しました豊岡市子ども・子育て支援事業計画の計画期間が今年度で終了しますことから、策定作業を進めておりました、来年度からの向こう5年間を期間とします第2期の計画について、このたび素案ができましたので報告をさせていただきます。

素案の作成につきましては、豊岡市子ども・子育て会議を昨年度と今年度、それぞれ4回の計8回、また、その間につきましても、文書による意見聴取等によってご意見を伺って作成をしてきております。

それでは、本日お手元にお配りしました概要版をもとに、一部素案をお開きいただきながらご説明をさせていただきます。

まず、第2期の計画の構成ですが、素案1ページをめくっていただいて、目次にありますように、第1章の計画の策定にあたってから、第6章の計画の推進体制と進行管理までの全6章で構成をしてお

りまして、こちらは第1期、現行計画と同じ構成となっております。

概要版に戻っていただきまして、表紙に当たりますページ、「はじめに」をごらんください。ちょっと字が小さいので申しわけないんですけども、ここに記載しております内容が計画策定の趣旨等でありまして、3段落目の真ん中あたり、青字で記載していますところ、子供を安心して産み育てられること、子供が集団の中で互いに育ち合う環境を確保すること、子育ての不安や負担感を和らげ、親子がしっかりと向き合い、子育てが楽しいと感じられるよう、地域や社会全体で子育てを支援していくことを目指して、向こう5年間で取り組むべき子ども・子育て支援に関する施策を示すものということで、ここは現行計画をほぼ踏襲した内容となっております。

では、この概要版開いていただきまして、次のページの上半分では、お手元にお配りいたしました素案でいきますと3ページからの、第2章の計画の基本的な考え方の内容としまして、基本理念を「子どもが元気に育つまち・子育てが楽しいまち・豊岡」とし、その基本理念の実現に向けて、全ての子供が笑顔で育つ、親が子育てを楽しむ、地域と職場が子育てを支えるの3つを基本目標としております。この理念、基本目標も現行計画をほぼ継承をしております。

その基本目標の3つ目なんですが、地域と職場が子育てを支えるとありますが、さらにその3つ目において、現行計画からここはちょっと変更させていただきまして、次期計画では、ごらんのとおり、事業所は父親と母親と一緒に子育てできるように、男女ともに育児休業を取得し、長時間労働に頼らず、子供の発熱時等でも急な休みを取得できる職場づくりを目指しますといたしております。ちなみに、現行計画では、事業所においては、子供を持つ母親は将来の担い手を育てる大切な人として、仕事と家庭生活の両立、ワーク・ライフ・バランスができる働きやすい職場環境づくりを目指しますというものとなっております。あとは、ここはもう現行計画

を継承しております。

その下、この施策の体系としまして、素案のほうでは5ページになりますが、ここにその体系図を記載しております。その実現のための取り組み方針として、取り組み方針1の子供の健やかな成長に資する教育・保育環境の確保から、取り組み方針7の次代の親の育成支援を定めております。

その中の取り組み方針4、社会的養護、支援の必要な子供の支援の中で、現在子供を取り巻く世帯の所得格差が学力格差を生み出し、将来の所得格差につながるといった貧困の世代的再生産が社会問題になっている背景を踏まえまして、子供の貧困対策が喫緊の課題となっていることから、(5)に現行計画、ひとり親家庭の自立支援というところに、生活困窮、ひとり親などの子供や家庭への支援というものを追加するような形で、ここを少し変更しております。

これらの取り組み方針に基づきまして、素案ではちょっと先に飛ぶんですが、68ページをお開きいただきまして、68ページからの第5章、施策の展開としております。その各施策の内容については、現状と課題、今後の方向性、主な施策という3つの構成で整理をし、現状と課題では、これまでの取り組みの状況や取り組みに当たったの課題について整理をし、今後の方向性では、現状と課題を踏まえた今後の取り組みの方向性を示し、その下に、具体的に取り組むこととして主な施策を掲載しております。個々の作成に当たりましては、関係各課にヒアリングを実施して作成をしておるところでございます。

また、ちょっと戻っていただきまして、概要版、今度右半分になります。こちら、事業計画としまして、素案では、また戻っていただいて申しわけないですが、28ページになります。28ページからの第4章で記載しております量の見込みと確保方策で、年度ごとに数字等を示した就学前の教育・保育と、地域子育て支援事業の量の見込みとその確保方策の概要、内容を整理し、記載したものの一部を概要版のほうでは抜粋しております。

この量の見込みと確保方策につきましては、当初、今後策定予定の豊岡市における幼児教育・保育及び放課後児童のあり方計画に基づきまして、教育・保育の量の整備、確保に取り組むこととして、次期計画期間、来年度から2024年度内の待機児童の解消に向け、計画を策定しようとして当初進めておりました。しかし、ご承知のとおり、あり方計画の策定が来年8月になる見込みである一方、本事業計画は国の方針に基づいて策定する必要があったりですか、また県からの指示等によりまして、基準日があり方計画では3月1日なんですが、本計画では4月1日ということもあって、数字においては少しあり方計画とは整合性がちょっととれないものとなっております。

しかし、概要版にまた戻っていただきまして、概要版の下半分、教育・保育の提供体制と確保方策では、基本的にはこのあり方計画の答申に沿ったものということで、1)の幼稚園の再編・統合と認定こども園化や2)の就学前施設の再編・統合の中で記載をしております、あり方計画をもとにということところが主な現行計画との相違点というふうになっております。

次の概要版、最後、裏面になりますが、こちらが地域子ども・子育て支援事業の提供体制ということで、素案では、また先に行っていただきまして48ページからなんですが、本市が実施、取り組んでいる事業、全15事業の内容とその実施状況をまとめ、整理した内容となっております。この中で、1)利用者支援事業、同じく5の養育支援訪問事業、7の子育て短期支援事業、8の子育て援助活動支援事業、14の実費徴収に係る補足給付を行う事業につきましては、現行計画期間内にこちらは新たに本市において実施できた事業となります。言い換えれば5年前はできてなかったんですけども、この5年間で実施をさせていただくこととなった事業ということでございます。

そのほか、この概要版には掲載をしておりませんが、素案では、また最初に戻っていただくんですが、6ページからの、6ページになって申しわけ

ないですけど、第3章、豊岡市の子育てを取り巻く現状としまして、各種統計データ、そしてこの計画を策定するに当たって、豊岡市内の未就学児及び小学生の子供のいる世帯を対象として行ったアンケート調査結果、そして就学前の教育・保育及び子育て支援事業の利用状況等から、豊岡市の子育てを取り巻く現状について整理をし、記載をしております。

今後は、本日、13日の金曜日から年明けの6日にかけてパブリックコメントを実施しまして、来年の3月策定の予定としております。

なお、ほかの議員さんに対しましては、本日この後、概要版とホームページ掲載場所をお示しさせていただいた添付文書をレターケースに入れて周知をさせていただきたいというふうに考えております。

簡単ではございますが、以上でございます。

○委員長（西田 真） それでは、報告は終わりということであります。

これらの報告に対しまして委員の皆さん、特に質問等があればどなたからでもどうぞ。

福田委員、どうぞ。

○委員（福田 嗣久） この概要版の中で、教育・保育の提供体制のところありますね、右側の中ほどから下、豊岡市における幼児教育・保育及び放課後児童のあり方計画、これはもう今、計画策定中だけでも、をもとにとありますけれども、まあ、えんか。まだ、計画、できてへんけども、そうでしょ。また、聞くわ。

○委員長（西田 真） よろしいか。

○委員（福田 嗣久） はい。

○委員長（西田 真） よろしいね。

○委員（福田 嗣久） はい。

○委員長（西田 真） それでは、こども育成課の皆さん方につきましては、ここで退出していただいて結構です。お疲れさまでした。

委員会を暫時休憩いたします。

午後3時13分 委員会休憩

午後3時14分 委員会再開

○委員長（西田 真） それでは、委員会を再開いたします。

次に、協議事項（4）番、委員会管内視察研修事前学習についてです。視察先、実施日につきましては、次第書に記載のとおりです。

本日は、視察項目であります豊岡市非認知能力向上対策事業に係る演劇ワークショップについて説明を受けたいと思います。よろしくお願いいたします。どうぞ。

○こども教育課長（飯塚 智士） まず、視察先につきましては資母小学校、実施日は2020年1月15日水曜日、内容は9時35分から10時20分までが1年生のワークショップ、そして10時45分から12時20分まで2年生、3年生のワークショップを見ていただく予定にしております。

きょう別紙をお配りさせていただきますが、そちらのほうをごらんください。ありますでしょうか。

○委員（井上 正治） これですね。

○こども教育課長（飯塚 智士） はい、それです。

1番、2番につきましては、見ていただいたとおりになりますが、ちょうど大きな3番のところ、今回のワークショップのプログラムというふうになります。

（2）番のほうに3回目の活動のプログラムのポイントというのを載せておりますが、左側に活動内容、そして右側に活動のポイントという形で、今回は自己決定であるとか、自己有用感を高めていくような形のもの、また合意形成であったりとか、こういったところをワークショップによっていくというようなことを考えております。

見ていただくポイントとしましては、子供の表情であったりとか、子供の活動、そして子供の変容という部分を見ていただきたいとは思っているんですけども、やはりその背景には、講師の先生方が、活動の中で子供たちの語りかけや動作に対しての意味づけというものをされております。そういったところで、こういった意味づけ、こういった言葉かけをする中で子供たちが変容していくのか、表情を

変えていくのかっていうところが一つのポイントになるのかなと思いますので、そのあたりを見ていただけたらというふうに思っております。

そして、どの学年も、最後にまとめとして子供たちにみずからの変容の意識化っていうものをさせていきます。なので、子供たち自身は、恐らく自分の変容というのにはこの活動の中では気づきません。ただ、こういった講師の話によって自分の変容に気づかせる、要するに意識化させるという活動を最後にとります。こういったときも、この講師の先生方がどういう声かけをしていったら子供たちが意識化するのかという部分、こういったところに着目していただくと、より見やすくなるかなというふうに思っております。

学校現場においても、こういった講師の言葉かけや意味づけの言葉について教師自身が学び、ふだんの活動の中でそういった言葉かけをすることによって、子供たちの非認知能力を高めていこうというふうな形で思っておりますので、見ていただけたら幸いかなと思います。

簡単ですが、以上です。

○委員長（西田 真） 説明は終わりました。

これらの説明に対しまして、委員の皆さんで特に質問等があればお伺いいたします。どなたからでもどうぞ。

田中副委員長。

○委員（田中藤一郎） 当日は、例えば写真とか、スマホで撮影とかはいいものなのか、だめなのか、そのあたりどうですか。

○委員長（西田 真） どうぞ。

○こども教育課長（飯塚 智士） 写真撮影については構いませんが、ただ、例えばSNSでアップするとか、何かを掲載するという場合は、一応本人の許諾というのを得ますので、写真を我々にちょっと確認させていただきながら、していきたいというふうに思っております。

○委員長（西田 真） よろしいか。

○委員（田中藤一郎） はい。

○委員長（西田 真） ほかに。

田中副委員長。

○委員（田中藤一郎） この講師の先生はそういう、今回、こういった方々がもう実際入っていく先生というふうな形だというふうに理解すればよろしいんですね。

○委員長（西田 真） どうぞ。

○こども教育課長（飯塚 智士） そのとおりです。

○委員（田中藤一郎） 特別のことではなくて。

○こども教育課長（飯塚 智士） 毎回来ていただいております。

○委員長（西田 真） よろしいか。

○委員（田中藤一郎） はい。

○委員長（西田 真） ほかにありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（西田 真） いいですか。

それでは、こども教育課の皆さん方につきましては、ここで退席していただいて結構です。お疲れさまでした。

もうちょっと残ってください。もといですね。質疑、質問の時間を確保していただけるかどうか、これを現場で見た後に、そういうのはできるかどうかね、その辺を確認もさせていただきたいし、調整も必要だと思うんですけど、いかがでしょうか。

○こども教育課長（飯塚 智士） まず、全部のワークショップが終わるのが12時20分になりますので、その後すぐということであれば、校長と講師であれば可能。ただ、担任の先生も交えて話を聞きたいということであれば、担任のほうが給食の片づけまで終わった後でないと帰ってこれない。となりますと、1時過ぎぐらいからであれば可能かなと思っております。なので、まずどちらが、担任も含んだほうがいいのかどうかというところをちょっとお聞かせ願ったほうが。

○委員長（西田 真） 本来は担任も入ったほうがいいんでしょうけど、1時過ぎまでという時間が結構ありますし、その間で私どもが昼食できる場所があればそれはええんでしょうけど、場所的に何かありませんかや。

○こども教育課長（飯塚 智士） はっきり言うと、

外に出て食べて帰ってくるには間に合わないと思いますので、それでありましたら、例えば12時20分が終わった後に、給食を試食していただきながら、校長と、それから講師の先生方と話を進める。そこで、給食の片づけ等が終わった担任が戻ってきて合流して、講師、校長、担任と議員さん方で質疑応答の時間をといるのはとれるかなというふうには思っておりますけども、いかがでしょうか。

○委員長（西田 真） それでは、委員のほうでその給食をいただくことは有料でできるという話になりますか。

○こども教育課長（飯塚 智士） はい。

○委員長（西田 真） わかりました。そしたら、当日は、給食を委員の皆さん、それぞれ一緒に食べて、後で担任も交えて質疑応答をしたいと思いますので、その調整をよろしくお願いします。

そして、議会だよりに掲載用の写真撮影の許可も得ていてください。それもよろしくをお願いいたします。

そして、集合時間8時半出発ですけど、自転車小屋の横ということでよろしくお願ひしたいと思います。

そして、公用車に乗る方、また現地に直接行かれる方の確認もどないでしょうか。

福田さんは直接ですね。ほかは。

○委員（田中藤一郎） 僕も直接。

○委員長（西田 真） 田中委員も直接。あとは、公用車に同乗ということでよろしいですかね。

とりあえず今、そしたら、福田さんと田中副委員長が直行と、あとは公用車。また、この後で変更のある場合は木山さんに言うてください。

そして、複式学級の見学言いますんか、視察なんですけど、中竹野小学校か竹野南小学校に行く予定にしたいと思っております。日程調整なんですけど、日程を2月4日の火曜日から2月12日の水曜日を希望したいと思いますんで、他の委員の皆さん、ちょっと確認をしていただきたいと思います。2月4日から2月12日、どちらが、都合が悪い日がありましたら。

暫時休憩いたします。

午後3時23分 委員会休憩

午後3時24分 委員会再開

○委員長（西田 真） 委員会を再開いたします。

複式学級の視察でありますけど、中竹野小学校か竹野南小学校ということで、日程は2月4日の火曜日から2月12日の水曜日、いずれでも午前中ぐらいで調整していただければと思いますので、飯塚課長、調整の方をよろしくお願ひいたします。

そして、決定次第、木山さんのほうに連絡のほうをお願ひいたします。

それでよろしいですね。

それでは、そのように決定いたします。

それでは、こども教育課の皆さん方につきましては、ここで退席していただいて結構です。お疲れさまでした。

委員会を暫時休憩いたします。

午後3時25分 委員会休憩

午後3時26分 委員会再開

○委員長（西田 真） それでは、委員会を再開いたします。

次に、協議事項（5）番、委員会意見・要望のまとめに入ります。

報告第20号、専決第16号及び第107号議案から第121号議案まで、第143号議案、第146号議案、第151号議案、第155号議案から第158号議案、並びに第166号議案から第170号議案までに対する当委員会の意見・要望として、委員長報告に付すべき内容について、協議いただきたいと思ひます。

委員の皆さんからの提案について、委員会意見・要望とすべきか、協議を行いたいと思ひます。

暫時休憩いたします。

午後3時26分 委員会休憩

午後3時34分 委員会再開

○委員長（西田 真） それでは、委員会を再開い

たします。

委員会意見・要望ですけど、福田委員が先ほど言われました第151号議案、公正で地域の実情もしっかり組み込んだ地域と子供にとっての夢のある統合再編計画となるよう努力されたい。それと、専決。

○委員（福田 嗣久） この地域と子供、子供と地域のほうがええな。子供を先にしたほうが。

○委員長（西田 真） 子供と地域にとってもということで、文章を若干変えます。

それと、専決第16号、人身事故について、この2件を委員会の意見・要望としたいと思いますが、それでよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（西田 真） それでは、ただいま協議いただきました委員会意見・要望を含む委員長報告の案文については、正副委員長に一任願いたと思いますが、ご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（西田 真） ご異議なしと認め、そのように決定いたしました。

委員会を暫時休憩いたします。

午後3時35分 委員会休憩

午後3時35分 分科会再開

○分科会長（西田 真） 休憩前に引き続き分科会を再開いたします。

次に、協議番号（6）番、分科会意見・要望のまともに入ります。

第154号議案に対する当分科会の意見・要望として、予算決算委員会に報告すべき内容について協議いただきたいと思います。

委員の皆さんからの提案について、分科会意見・要望とすべきか、協議を行いたいと思います。

暫時休憩いたします。

午後3時35分 分科会休憩

午後3時47分 分科会再開

○分科会長（西田 真） それでは、分科会を再開

いたします。

ただいま委員会意見・要望であります。先ほど出ていました、新文化会館は大きな予算を投じる事業であり、公共施設再編計画の中で、財政から見ても維持修繕費等、ランニングコストを見越した上で、使いやすく、将来負担を少なくなるような文言を入れて要望・意見としたいと思いますが、よろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（西田 真） それでは、ただいま協議いただきました分科会意見・要望を含む分科会長報告の案文については、ただいま申し上げました件をまとめるということで、正副分科会長に一任願いたと思いますが、ご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（西田 真） ご異議なしと認め、そのように決定いたしました。

ここで分科会を閉会いたします。

午後3時48分 分科会閉会

午後3時48分 委員会再開

○委員長（西田 真） それでは、委員会を再開いたします。

次に、協議事項（7）番、閉会中の継続審査の申し出についてを議題といたします。

別紙1をごらんいただきたいと思います。よろしいですか。（「はい」と呼ぶ者あり）

それでは、議長に対して、委員会重点調査事項を、閉会中の継続審査事項として議長に申し出たいと思いますが、これにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（西田 真） ご異議なしと認め、そのように決定いたしました。

次に、協議事項（8）番、その他、委員会管外視察研修についてであります。

それでは、当委員会の管外視察研修の日程につきましては、5月13日水曜日から15日金曜日ということで決定してよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（西田 真） そのように決定したいと思います。

また、予備日程としましては、5月12日火曜日から14日木曜日ということにしたいと思いますすが、よろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（西田 真） 調査事項、視察先等につきましては、お手元に過去の視察先等の一覧をお配りしております。

意見等ありますでしょうか。

暫時休憩します。

午後3時50分 委員会休憩

午後3時52分 委員会再開

○委員長（西田 真） それでは、委員会を再開いたします。

先ほどの調査事項、視察先等につきましては、過去の視察先も一応ごらんいただいたところではありますけど、各委員さん、またいろいろと検討していただいて、行きたい場所、内容等、木山さんのほうに後日またお知らせいただきたいと思います。

そのようなことでよろしいでしょうか。（「はい」と呼ぶ者あり）

それでは、各委員の皆さん、視察先と内容ですね。それを後日、木山さんのほうにお知らせ願いたいと思います。

その他について、委員の皆さんから特にご発言はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（西田 真） 特にないようですので、以上をもちまして文教民生委員会を閉会いたします。お疲れさまでございました。

午後4時00分 委員会閉会